

選択的評価事項に係る評価

自 己 評 価 書

平成 1 9 年 6 月

高松工業高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	選択的評価事項A 研究活動の状況	5
IV	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	57

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

高松工業高等専門学校

(2) 所在地

香川県高松市

(3) 学科等の構成

学科：機械工学科、電気情報工学科

制御情報工学科、建設環境工学科

専攻科：機械電気システム工学専攻

建設工学専攻

(4) 学生数及び教員数（平成19年5月1日現在）

学生数

本科：機械工学科	210人
電気情報工学科	204人
制御情報工学科	199人
建設環境工学科	184人
計	797人

専攻科：

機械電気システム工学専攻	47人
建設工学専攻	11人
計	58人

教員数

専任教員	60人
助手	2人
計	62人

2 特徴

高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、国立高専の1期校として昭和37年4月に設置された。当初は、機械工学科（2学級）、電気工学科（1学級）の2学科構成であったが、昭和41年には土木工学科が増設され、平成2年には、機械工学科1学級を改組し制御情報工学科が新たに設置された。平成6年には土木工学科を建設環境工学科に改組し、平成13年には電気工学科を電気情報工学科に名称変更した。平成11年には準学士課程卒業生を対象に高度な技術者教育を実施する、機械電気システム工学専攻（3コース）及び建設工学専攻の2専攻（4コース）からなる専攻科が設置された。平成17・18年度

には専攻科の機械工学コース、電気情報工学コース、制御情報工学コース、建設工学コースの各コースに対応した4つの技術者教育プログラムがJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受け、国際的な学士課程レベルの教育が行われていることが認められた。

本校は、香川県内唯一の工科系高等教育機関として創設されたこともあり、当初から地域に根ざし、産業界のニーズに応える創造性豊かな実践的技術者の育成に努めてきている。

教育面では、校訓である「自彊・独創・和敬」の教育理念のもとに、A 広い視野と技術者としての倫理観（倫理）、B 科学技術の基礎知識と応用力（知識）、C 課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）、D 論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）の4つの学習・教育目標を掲げ、これらを身につけた我が国の目指す科学技術創造立国の一翼を担う優れた技術者の育成を目指している。

技術者を目指す学生の総合的な人間力を養うため、課外活動についても積極的に取り組んでおり、低学年の学生は高校総体や高校野球でも活躍するとともに、高専大会では多くの種目で全国大会にも出場するなど優秀な成績を収めている。また、国際社会で活躍できる技術者となるための一助とするため、18年度からは地元企業の支援も受けて学生の海外語学研修も開始した。

研究面では、教育内容の改善向上を図り、新技術創成につながる基礎研究に積極的に取り組んでいるが、宇宙溶接技術の開発に成功するなど世界レベルの研究も行われている。

産業界との連携の面では、昭和62年の高機能化技術教育研究センターの設置を契機として、技術交流会や高度技術者養成研修などを実施するとともに、共同研究や受託研究の推進、さらに企業との包括協定の下での技術者の指導など積極的な取組みを進めている。平成17年度からは研究・地域連携推進室を設置して推進体制を整えた。

地域との連携・交流においても、近隣小・中学生を対象としたサイエンスフェスタや商店街でのミニサイエンスフェスタの開催、オープンキャンパス、中学校への出前授業の実施など、地域のニーズに応じて継続的に活動を行っており、好評を博している。

Ⅱ 目的

1. 本校の使命

本校の使命は、準学士課程においては「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」こと、専攻科課程においては「精深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導する」ことである。

2. 校訓（理念）

本校の校訓は「自彊・独創・和敬」であり、自ら努め励み（自彊）、豊かな創造性をもち（独創）、人間相互の和と尊敬の念を抱きながら人・社会と調和・協力（和敬）して問題解決に取り組む技術者の育成を理念としている。

3. 養成する人材像

豊かな教養と広い視野、および科学技術の進展に対応できる創造力と実行力を備え、コミュニケーション能力を身につけた実践的技術者を育成する。

4. 本校の学習・教育目標

準学士課程及び専攻科課程を通じて、次に示す4つの学習・教育目標（大目標）を掲げている。

- (A) 広い視野と技術者としての倫理観（倫理）
- (B) 科学技術の基礎知識と応用力（知識）
- (C) 課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）
- (D) 論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）

5. 卒業（修了）時に身につけるべき学力や資質・能力

(1) 準学士課程

前記の大目標のもと、準学士課程卒業までに達成すべき学習・教育目標を下記に挙げる。

【全学科共通】

- (A) 広い視野と技術者としての倫理観（倫理）
社会や文化に関心を持ち、社会人としての責任感と倫理観を養う。
- (B) 科学技術の基礎知識と応用力（知識）
自然科学と専門技術の基礎を身につけ、それを基本的問題に適用できる。
- (C) 課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）
課題に自発的に取り組み、創意工夫して解決する姿勢と能力を養う。
- (D) 論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）
自分の意見を日本語で論理的に説明できる。英語によるコミュニケーションの基礎を身につける。

【機械工学科】 機械工学分野の基礎知識と技術を身につけ、課題に取り組み、考え解決することができる。

【電気情報工学科】 高度化・多様化するエレクトロニクス、情報通信技術の変遷に対応できる基礎学力を身につけ、論理的な思考により継続的に学習を行うことができる。

【制御情報工学科】 機械工学・電子工学・コンピュータ制御を融合したメカトロニクス分野の基礎学力を身につけ、「モノづくり（開発・設計・製作・検査）」に応用できる。

【建設環境工学科】 基本的な建設構造物の設計に必要な力学、材料、情報、計画などの基礎学力、および防災や環境などに関する基礎知識を身につける。

(2) 専攻科課程

前記の大目標のもと、専攻科課程修了までに達成すべき学習・教育目標を下記に挙げる。

【両専攻共通】

(A) 広い視野と技術者としての倫理観（倫理）

人類、世界、文化に広く関心を持ち、視野の広い技術者になる。技術の産物が社会や自然に及ぼす影響に関心を持ち、責任感と倫理観を養う。

(B) 科学技術の基礎知識と応用力（知識）

自然科学と専門技術の基礎を確実に身につけ、それを具体的問題に応用できる。

(C) 課題解決の実行力と豊かな創造力（実行力）

自ら課題を発見して、自主的に取り組み解決する姿勢と能力を身につける。互いに協力しあって課題に取り組める技術者、創造力豊かな技術者になる。

(D) 論理的なコミュニケーション能力（コミュニケーション）

物事を論理的に考え、それを日本語により文章と口頭で表現できる。英語による基本的な記述、表現が行える語学力を身につける。

【機械電気システム工学専攻】

機械工学コース：機械工学をベースとした幅広い知識を身につけ、自主的、継続的に技術的問題に取り組み、創意工夫して実践することができる。

電気情報工学コース：電気電子・情報通信分野を対象とした専門知識と、それによる論理的な思考力と工学的な応用力を身につける。

制御情報工学コース：機械工学、電子工学及びコンピュータ制御技術に関する専門知識と、それをメカトロニクス分野の「モノづくり」に応用する力を身につける。

【建設工学専攻】（建設工学コース）

構造物の耐震・耐久設計、防災・リサイクル・情報・環境等の技術に関して、準学士課程よりもさらに詳しい学力と知識を身につける。

6. 教育研究などの諸活動を行う上での基本方針

本校教職員は、本校の使命を果たし、学習・教育目標の実現に努める。次の基本方針のもとに教育研究などの諸活動を行う。

（1）学校全般の運営に関すること

- ①教育活動などを円滑に行うために、各種委員会を設置して企画・調整及び支援を行う。
- ②教員会議で全体的な意思疎通を図る。

（2）学生の学習・教育に関すること

- ①入学者受け入れ方針を掲げ、その方針に沿って学生の受け入れに努める。
- ②「学生による授業評価」、「シラバスの充実」、「教員相互の授業参観」などを実施し、授業改善に努める。
- ③学生に基礎学力を身につけさせるため、カリキュラム改善に努める。

（3）学生支援に関すること

- ①学生の心身の成長・発達のために、学生の自発的活動（学生会、クラブ、寮生活）のサポートや学生へのカウンセリングなどの教育的配慮に努める。
- ②学生の就職・進学支援を行う。

（4）研究活動及び地域社会貢献に関すること

- ①教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるように努める。
- ②研究活動や公開講座の開催を通して、地域社会に貢献する。

Ⅲ 選択的評価事項 A 研究活動の状況

1 選択的評価事項 A「研究活動の状況」に係る目的

本校の研究活動に対する目的は、次に示す二つの目的で構成されている。一つ目の目的は「教育のための研究活動」であり、研究活動を通じて教員の資質向上と教育活動への積極的な還元を目的としている。二つ目の目的として「地域社会のための研究活動」を掲げ、地域企業との共同研究や技術支援等を通じて地域産業への貢献を目的としている。

2 選択的評価事項 A「研究活動の状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点 A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

上述の目的を達成するための本校における研究体制と支援体制について以下に述べる。

1. 研究体制

(i) 学内組織

昭和 63 年 3 月に研究委員会を発足させ(資料 A-1-①-1)、教員の研究活動、地域との共同研究の推進を図る体制の整備を行った。後に研究委員会を平成 17 年 3 月に研究・地域連携推進室と改め、事務組織である企画室とともに、教員の研究活動推進に加え地域からの技術相談の窓口など、実行組織としての位置付けを明確にしている(資料 A-1-①-2)。

また、学内における研究活動の連携においては、研究・地域連携推進室が中心となり、本校の専門分野(資料 A-1-①-3)(機械分野、電気電子・情報分野、メカトロニクス系、土木・環境分野)を活かした体制の整備を進めている。学外へ向けた連携体制として、研究・地域連携推進室、高機能化技術教育研究センター、総務広報室、企画室等が中心となり、本校のホームページにて「地域社会との連携体制」として平成 18 年 2 月に発行した研究・技術シーズ集(I)の電子ファイル(資料 A-1-①-4)、本校教員のデータベース(教員氏名、職名、所属学科、取得学位、専門分野、研究内容を表すキーワード、主な研究業績、研究助成等取得状況、所属学会名、共同研究・受託研究、社会連携活動)を参照できる研究者・技術情報(資料 A-1-①-5)、高機能化技術教育研究センターの紹介(資料 A-1-①-6)等を学外に公開し、地域との連携を図っている。

(ii) 施設

本校においては各教員に研究室が割り振られており、専攻科生、本科生の特別研究や卒業研究の活動スペースとして活用されている。また、各学科には専門技術に対応した実験室を配置しており、授業における実験実習に加えて研究活動のスペースとしても利用されている。

研究活動を推進するための共同利用施設として、高機能化技術教育研究センター、コンピュータサイエンスセンター、実習工場、図書館などがある。高機能化技術教育研究センターは、高機能化技術教育研究センター長および 6 分野の研究開発室長(新材料、材料利用技術、新エネルギー技術、環境防災、メカトロニクス、教育技術)と事務部として総務課長によって運営されており、研究環境の整備と研究成果の教育活動への還元に寄与している(資料 A-1-①-7)。同様に、コンピュータサイエンスセンター(以後 CS センタ

一) は、センター長および各学科から選出された構成員 5 名、教務関係教員 1 名、専攻科関係教員 1 名の教員 7 名と学生課長の計 8 名によって運営されている。CS センターは、研究活動に必要とされる情報処理のための計算機の管理を行うことにより研究環境の改善を図っている（資料 A-1-①-8）。また、実習工場は、共同・受託研究等で必要となる実験装置の製作や加工などに、図書館は文献情報の提供等に寄与している。

（iii）活動状況

活動状況として、まず研究・地域連携推進室では、企業・大学・高専・地方公共団体等産学官の関係者からなる技術交流会（基調報告、シンポジウム、ポスターセッションなど）を毎年 7 月末に企画開催している（資料 A-1-①-9）。さらに、平成 18 年 2 月に研究・技術シーズ集（I）を創刊し、地域企業への配布や Web ページにて公開することにより地域との連携を図っている。研究・地域連携推進室に寄せられた過去 5 年間の共同研究、受託研究の件数を表 A-①-1 に示す。また、高機能化技術教育研究センターでは、年度ごとの研究成果を研究成果報告書として発行し学内外に情報を提供している（資料 A-1-①-10）。

表 A-①-1 過去 5 年間の共同研究、受託研究の件数の推移

年 度	共同研究	受託研究	合 計
平成 14 年度	1	1	2
平成 15 年度	3	1	4
平成 16 年度	12	2	14
平成 17 年度	17	1	18
平成 18 年度	11	1	12

2. 支援体制

（i）事務支援組織

技術系職員の組織改組により平成 15 年 4 月より 3 班から構成される技術支援室（第一班：製造・加工関係、第二班：電気・情報関係、第三班：測定・分析関係）を新たに組織した（資料 A-1-①-11）。教員の研究活動や地域からの技術相談等において支援が必要とされる場合、学生課長宛に研究活動の支援要請書（資料 A-1-①-12）を提出することにより研究補助等の支援を得ることができる。また、平成 18 年 4 月に企画室を配置し、企画室内の企画・評価係によって地域連携および研究協力の事務的処理を行っている。企画室の具体的な業務内容として、科学研究費や各種助成金等の外部資金、知的財産、各種地域連携行事、共同研究・受託研究契約等についての情報提供及び事務手続き、本校開催の技術交流会や高度技術者養成研修に関する事務手続きに加えて、本校教員の研究活動内容を把握し、外部への情報提供窓口として機能している。

(ii) 組織の活動状況

技術支援室における過去4年間の支援要請数推移表を表A-①-2示す。

表A-①-2 支援要請数の年間推移表

技 術 支 援 要 請 数

年 度	研究活動支援要請	支援要請書	業務実績	合 計
平成15年度			14	14
平成16年度	3	3	13	19
平成17年度	4	15	16	35
平成18／11	4	2	5	11

(分析結果とその根拠理由)

適切である。

研究体制としては、主として教員で構成される研究・地域連携推進室と事務組織である企画室が教員の研究活動推進のみならず地域からの技術相談の窓口など、実行組織としての位置付けを明確にしている。また、学内における研究活動の連携においては、研究・地域連携推進室が中心となり、本校の専門分野を活かした体制を整備している。学外における連携体制として、企画室等が中心となり、本校のホームページにて「地域社会との連携体制」として平成18年2月に発行した研究・技術シーズ集(I)や本校教員のデータベースを参照できる研究者・技術情報、高機能化技術教育研究センターの紹介等を学外に公開し、地域との連携を図っている。共同利用施設として、高機能化技術教育研究センター、コンピュータサイエンスセンター、実習工場、図書館などの共同利用施設を配置し、活用されている。

支援体制として、技術系職員組織により構成される技術支援室を組織し、教員の研究活動や地域からの技術相談等において支援にあたっている。また、企画室では企画・評価係によって地域連携および研究協力の事務的処理を行っている。

以上のことから、研究の目的に沿った研究体制と支援体制が整備され機能していると判断できる。

資料 A-1-①-1 研究委員会規程

(研究委員会規程)

高松工業高等専門学校研究委員会規程

昭和63年2月22日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、高松工業高等専門学校内部組織規則第37条第2項の規定に基づき、高松工業高等専門学校研究委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、校長の諮問に応じ次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教官の研究推進に関すること。
- 二 研究紀要の発行に関すること。
- 三 地域との共同研究の推進に関すること。
- 四 その他教官の研究に関すること。

(組織及び任期)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

- 一 教務主事及び教務副主事
- 二 図書館長
- 三 各施設長
- 四 一般教育科及び各学科から選出された各1名の教官

2 前項第4号の委員は、校長が任命する。

3 第1項第4号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出するものとする。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

(研究委員会規程)

第5条 校長は、委員会に随時出席することができる。

2 委員長は、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(研究紀要編集小委員会)

第6条 委員会に、研究紀要の編集業務を担当させるため、研究紀要編集小委員会(以下「編集小委員会」という。)を置く。

2 編集小委員会に属する委員は、教務副主事及び第3条第1項第4号に掲げる委員とする。

3 編集小委員会に委員長(以下「小委員長」という。)を置き、教務副主事をもつて充てる。

4 小委員長は、編集小委員会の会務を掌理する。

(事務)

第7条 委員会の事務は、庶務課において処理する。

(その他)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規程は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

〔高松工專一〕

七六

資料 A-1-①-2 研究・地域連携推進室規程

高松工業高等専門学校研究・地域連携推進室規程

平成17年3月30日制定

(趣旨)

第1条 高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）に高松工業高等専門学校研究・地域連携推進室（以下「研究・地域連携推進室」という。）を置く。

(目的)

第2条 研究・地域連携推進室は、教員の研究意識の高揚を図り、民間企業等との共同研究等を推進することにより、本校の教育研究活動の一層の活性化を図り、社会的貢献と地域産業への寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 研究・地域連携推進室は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 受託研究及び共同研究の推進に関すること。
- 二 研究成果の活用及び技術相談に関すること。
- 三 講演会・技術交流会及び技術相談に関すること。
- 四 研究紀要の編集方針に関すること。
- 五 その他研究・地域連携の推進に関する必要な業務

(組織)

第4条 研究・地域連携推進室に、室長及び室員を置く。

(室長)

第5条 室長は、教授又は助教授の中から校長が任命する。

2 室長は、研究・地域連携推進室の業務を掌理する。

(室員)

第6条 室員は、教職員の中から校長が任命する。

2 室員は、室長の下に研究・地域連携推進室の業務に従事する。

(室長及び室員の任期)

第7条 室長及び室員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(その他)

第8条 この規程に定めるもののほか、研究・地域連携推進室の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 高松工業高等専門学校リフレッシュ教育推進センター運営規程（平成8年1月22日制定）は、廃止する。
- 3 高松工業高等専門学校研究委員会規程（昭和63年2月22日制定）は、廃止する。
- 4 高松工業高等専門学校公開講座委員会規程（平成4年3月23日制定）は、廃止する。

（出典：高松工業高等専門学校規則集）

資料 A-1-①-3 各学科の教員の配置状況と研究分野の一覧

■教員の研究テーマとその内容					Research Field of Faculty
職名 Title	学 位 Degree	氏 名 Name	専門分野 Research Field	研究テーマ Study Theme	
教授 Professors	理学士 B.Sc.	鎌田 弘 KAMADA, Hiroshi	教育工学 Educational Technology	①数学授業におけるWeb上の簡易補習システムの開発 Development of a Web-based Supplemental Learning System in Mathematical Classes. ②数学授業における効果的な構成主義的学習法に関する研究 Study of Effective Learning Method on Constructivism in Mathematical Classes.	
	文学修士 M.Litt.	権藤 典明 GONDOU, Noriaki	人文地理学 Human Geography	①明治期における村の研究 Study on the Villages in the Meiji Period. ②香川県における灌漑システムの研究 Study on the Irrigation System in Kagawa Prefecture.	
	文学修士 M.Litt.	長谷川 隆 HASEGAWA, Takashi	説話文学、軍記物語 Oral Literature, Tale of War	①平家物語の研究 The Study of Heikemonogatari. ②説話文学の研究 The Study of Oral Literature.	
	法学修士 LL.M.	河野 通弘 KONO, Michihiro	刑事法、憲法 Criminal Law & Procedure, Constitution	①令状主義 Warrant Requirement in Criminal Procedure. ②適正手続 Due Process and Criminal Procedure.	
	博士(工学) D.Eng.	服藤 憲司 HARAFUJI, Kenji	半導体物理 Physics of Semiconductors	①半導体デバイスの物理機構 Physics of Semiconductor Devices. ②半導体材料の分子モデリング Molecular Simulation of Semiconductor Materials.	
	文学修士 M.Litt.	坂本 具貴 SAKAMOTO, Tomotsugu	中国古代思想史 The history of ancient chinese thoughts	①漢代春秋学の研究 Study of Chun-qiū 春秋 Learning in Han 漢 period.	
助教授 Associate Professors	工学修士 M.Eng.	堀江 賢治 HORIE, Kenji	数学、解析 Mathematics, Real Analysis	①実解析の研究 Real Analysis. ②Convolution代数の研究 Convolution Algebra.	
	文学士 B.Litt.	出淵 幹郎 IDEBUCHI, Mikio	英語教授法 Methodologies of Teaching English	①外国語としての英語教授法 Teaching English as a foreign Language. ②第2言語としての英語教授法 Teaching English as a second Language.	
	理学修士 M.Sc.	高橋 宏明 TAKAHASHI, Hiroaki	位相幾何学、数理物理 Topology, Mathematical Physics	①場の量子論的手法による低次元位相幾何学 Quantum field theoretical methods in low dimensional topology. ②位相幾何学における楕円コホモロジー等の形式群的アプローチ Elliptic cohomology and related formal group approach in algebraic topology.	
	博士(工学) D.Eng.	岡野 寛 OKANO, Hiroshi	無機材料化学、薄膜工学 Inorganic Materials Chemistry Thin Film Engineering	①機能性薄膜の作製に関する研究 Preparation of Functional Thin Films. ②弾性表面波デバイス用材料に関する研究 Development of new materials for Surface Acoustic Wave Devices.	
	教育学修士 M.Ed.	田口 淳 TAGUCHI, Jun	教育思想史 History of Educational Thought	①ヘルバルトの教育思想の形成に関する研究 Formation of Herbart's educational thought. ②ドイツにおけるヘルバルト主義運動の発展に関する研究 Development of the Herbartian Movement in Germany.	
	修士 (体育学) M.Phys.Ed.	中瀬 巳紀生 NAKASE, Mikio	運動方法学、コーチ学 Sports Methodology, Coach Methodology	①バレーボールのラリーポイントに関する研究 The study on the rally point system in volleyball game. ②バレーボールのサーブと勝敗に関する研究 The study on the relationship between service points/faults and the game result in volleyball game.	
	教育学修士 M.A.(Ed.)	有道 祐子 ARIMICHI, Yuko	外国語としての英語教育 English as a Foreign Language Education	①コミュニケーション活動についての実践研究 An Empirical Study of Effective Communication Activities. ②実践的英語能力を高めるための指導法の工夫 A Study of Procedures to Enhance Students' Practical Communication Competence in English.	
講師 Assistant Professors	修士 (体育学) M.Phys.Ed.	吉澤 恒星 YOSHIZAWA, Kotsei	スポーツトレーニング理論 Theory of sports training	①野球投手のトレーニング・技術指導 Coaching & training of baseball pitchers. ②集団スポーツにおけるコーチング理論 Coaching theory about team sports.	
	修士(文学) M.Litt.	與田 純 YODA, Jun	西洋史 European History	①イギリスのナショナリズム Nationalism in Britain. ②イギリスの歴史教育 History Teaching in Britain.	
	博士(理学) D.Sc.	上原 成功 UEHARA, Shigenori	幾何学的トポロジー、 位相空間論 Geometric Topology General Topology	①無限次元多様体の位相 Topology of infinite-dimensional manifolds. ②集合値関数空間の位相 Spaces of multi-valued functions.	

職名 Title	学 位 Degree	氏 名 Name	専門分野 Research Field	研究テーマ Study Theme
講師 Assistant Professors	文学修士 M.Litt.	市川 緑 ICHIKAWA, Midori	イギリス文学 English Literature	①イギリスのモダニズム文学・文化研究 Study of English Modernist Literature and Culture ②文学理論 Literary Theory.
	修士(文学) M.Litt.	宇野 光範 UNO, Mitsunori	現代英米哲学 Contemporary Anglo-American Philosophy	①ゲーデルの哲学 Philosophy of Gödel ②心と機械 Minds and Machines
	博士(理学) D.Sc.	加藤 清考 KATO, Seiko	素粒子論、場の理論 Elementary Particle Physics Field Theory	①Yang-Mills理論の低エネルギー有効理論 Low-energy effective theory of Yang-Mills theory. ②3次元イジング模型のストリング表現 String representation of D=3 Ising model.
	博士(理学) D.Sc.	中川 征樹 NAKAGAWA, Masaki	代数的位相幾何学 Algebraic Topology	①Lie群と等質空間の位相幾何学的研究 Topology of Lie groups and homogeneous spaces.

■教員の研究テーマとその内容					Research Field of Faculty
職名 Title	学 位 Degree	氏 名 Name	専門分野 Research Field	研究テーマ Study Theme	
教授 Professors	工学博士 D.Eng.	岡田 憲司 OKADA Kenji	信頼性工学、材料強度学 Reliability Engineering, Strength & Fracture of Materials	①疲労強度データベースによる金属材料の確率疲労特性の解析 Statistical Fatigue Properties of Metallic Materials Based on JSMS Database. ②プラスチック製短下肢装具の耐久信頼性評価に関する研究 Development and Application of Ankle-foot Orthoses Testing Machine.	
	博士(工学) D.Eng.	木原 茂文 KIHARA Shigefumi	応用力学 Applied Mechanics	①焼結現象のシミュレーション技術に関する研究 A Study on Simulation Technology of the Sintering Process. ②鍛造成形シミュレーション Forging Process Simulation.	
	博士(工学) D.Eng.	岩田 弘 IWATA Hiroshi	振動工学、機械力学、ソーラーカー Vibration, Dynamics, Solar Vehicle	①機械力学の産業応用に関する研究 Research on Industrial Application of Dynamics. ②ソーラーカーの試作研究 The Design and Improvement in Solar-car Works.	
	博士(工学) D.Eng.	橋本 良夫 HASHIMOTO, Yoshio	振動工学 Vibration Engineering	①可変系の振動解析に関する研究 Vibration Analysis of Rheoliner Systems. ②振動する物体から発生する音による振動特性の同定に関する研究 Vibration Characteristics Identification from Sounds Radiated by Vibrating Objects.	
助教授 Associate Professors	工学修士 M.Eng.	高橋 義一 TAKAHASHI, Yoshikazu	流体工学 Fluid Engineering	①平板後流の特性 Characteristics of the Wake on a Flat Plate. ②エコカーの設計・製作 Design and Production of economy car.	
	工学修士 M.Eng.	山崎 容次郎 YAMASAKI, Yojiro	ロボティクス、機械制御工学 Robotics, Machine Control Engineering	①多自由度ロボットの位置と力の制御に関する研究 Study on position and force control of Multi-DOF robot. ②超小型HSTの開発と機構への応用制御に関する研究 Development of a Mini-HST and research on application control of it to a mechanism.	
	工学修士 M.Eng.	福井 智史 FUKUI, Satoshi	材料工学 Materials Science	①薄膜被覆鉄鋼材料の疲労強度特性に関する研究 Study of Fatigue Property of Steel Coated with Thin Film. ②PVD成膜法により作成したTiN薄膜の解析と評価 Analysis and Evaluation of TiN Thin Films Prepared by PVD Coating Method.	
	博士(工学) D.Eng.	小島 隆史 KOJIMA, Takafumi	熱工学 Thermal Engineering	①エンジン燃焼室内における燃焼のモデリングと数値解析 Numerical Simulation and Modeling of Combustion in an Engine Combustion Chamber. ②圧縮着火エンジンの有害排出物低減に関する研究 Reduction of Exhaust Emission in Compression Ignition Engines.	
	博士(工学) D.Eng.	吉永 慎一 YOSHINAGA, Shinichi	制御工学 Control Engineering	①内部モデル同定を含む適応サーボ系設計 Adaptive Servo Controller Identifying Internal Model. ②遺伝的アルゴリズムを用いた制御系の構成 A Construction of Control Systems Using Genetic Algorithm.	
講師 Assistant Professors	工学修士 M.Eng.	上代 良文 JODAI, Yoshifumi	流体工学 Fluid Engineering	①平板後縁近傍の乱流境界層の特性 Characteristics of the Turbulent Boundary Layer on a Flat Plate Near the Trailing Edge. ②流れ内におけるエキシマレーザのダブルパルス励起放電特性 Characteristics of Double Pulse Discharge in Excimer Laser with Gas Flow.	
	博士(工学) D.Eng.	酒井 孝 SAKAI, Takashi	材料工学 Materials Science and Engineering	①単結晶・多結晶金属材料の結晶粒微細化と方位特性の解明 Crystallographic Orientation and Mechanical Properties of Fine Grained Metals. ②各種構造用金属材料の曲げ加工性に及ぼす微視組織の影響の解明 Microstructures and Bending Properties of Structural Materials.	
助手 Research Associate	工学修士 M.Eng.	高橋 洋一 TAKAHASHI, Yoichi	精密加工学 Precision Machining	①レーザによる粉末焼結技術に関する研究 A Study on Powder Sintering Technique with Laser. ②鍛造加工における数値シミュレーション Numerical Simulation in Forging Processes.	

教員の研究テーマとその内容					Research Field of Faculty
職名 Title	学 位 Degree	氏 名 Name	専門分野 Research Field	研究テーマ Study Theme	
教授 Professors	工学博士 D.Eng.	樋口 弘志 HIGUCHI, Hiroshi	電子情報、通信情報 Electronics, Communication and Computer Science	① デジタル信号駆動方式によるデジタルスピーカシステムに関する研究 Fabrication of Digital Speaker System Driving by Direct Digital Signal ② 光ファイバを用いた光通信システムの構築に関する研究 Construction of Optical Communication Systems on Optical Fiber	
	工学博士 D.Eng.	原田 正博 HARAZONO, Masahiro	情報応用工学、音響情報工学 Applied Information Engineering, Acoustical Information Engineering	① 超音波反響定位の応用に関する研究 Research on Application of Bio-Sonar (Echolocation) ② 振動・騒音問題のデジタル処理に関する研究 Research on Digital Processing of Vibration and Noise Problem	
	博士(情報学) D.Eng.	本田 道隆 HONDA, Michitaka	画像工学、医用放射線工学 Imaging Technology, Medical Radiation Physics and Technology	① デジタルX線画像診断における低被曝化と画質向上の研究 Digital Method for Improving X-ray Image Quality with Low-dose ② X線画像シミュレータの開発 Development of X-ray Imaging Simulator	
	工学博士 D.Eng.	鹿間 共一 SHIKAMA, Tomokazu	半導体物性、薄膜工学 Semiconductor Physics, Thin Films Engineering	① 大気圧低温プラズマを用いたZnO薄膜の作製 Deposition of ZnO films by using atmospheric pressure cold plasma	
助教授 Associate Professors	工学博士 D.Eng.	荻原 昭文 OGIWARA, Akiyumi	光エレクトロニクス、レーザ計測、電子デバイス Optoelectronics, Laser Measurement, Electronic Device	① 液晶と高分子材料ヘレーザ干渉露光技術を用いた微細光学素子の作製に関する研究 Study of holographic optical element using polymer dispersed liquid crystal based laser interferometers ② ホログラム素子を用いた情報セキュリティへの応用に関する研究 Study of information security using holographic optical element	
	博士(工学) D.Eng.	重田 和弘 SHIGETA, Kazuhiro	情報通信工学、教育工学 Information and Communication Engineering, Educational Technology	① 立体ディスプレイを用いた効果的な3次元映像提示の研究 Study of Effective Presentation on a 3D Display ② マルチメディア学習システムにおける映像と音声の適切な提示速度に関する研究 Appropriate Presentation Speed of Animation and Narration for Learning	
	博士(工学) D.Eng.	漆原 史朗 URUSHIHARA, Shiro	モーションコントロール Motion Control	① リニアDCモータの位置決めシステム設計 Design of Linear DC Motor Positioning System ② ホッピングロボットの跳躍パターン生成 Generation of Hopping Motion Patterns of Hopping Robot	
講師 Assistant Professor	博士(工学) D.Eng.	太良尾 浩生 TARAO, Hiroo	電磁環境工学、生体電磁気学 Electromagnetic Compatibility, Bioelectromagnetics	① 100kHzまでにおける変動磁界曝露の実態調査 Surveys of Magnetic Fields below 100kHz ② 変動磁界による体内誘導電流の解析 Numerical Analysis of Induced Currents in Human Exposed to Time Varying Magnetic Fields	
助手 Research Assistants	学士(理学) B.Sc.	村上 幸一 MURAKAMI, Yuki Kazu	知能情報 Intelligent informatics	① 進化論的計算手法による自動プログラミングに関する研究 Research on Automatic programming by the evolutionary calculation technique	
	博士(工学) D.Eng.	榎本 崇宏 EMOTO, Takahiro	医用生体工学 Biomedical Engineering	① ニューラルネットワークを用いた無呼吸症候群に関する新しい診断方法の開発 Neural networks for the novel diagnosis method based on clinical snoring sound analysis in apnea	

教員の研究テーマとその内容					Research Field of Faculty
職名 Title	学 位 Degree	氏 名 Name	専門分野 Research Field	研究テーマ Study Theme	
教授 Professors	工学博士 D.Eng.	山内 庄司 YAMAUCHI, Shoji	熱工学、混相流 Thermal Engineering, Multiphase Flow	①蒸発管内の流動と伝熱に関する研究 Flow and Heat Transfer in Evaporating Tubes ②熱と流れの数値シミュレーションに関する研究 Numerical Simulation of Flow and Heat Transfer	
	工学博士 D.Eng.	吹田 義一 SUITA, Yoshikazu	溶接・接合工学、宇宙加工学 Welding & Joining, Processing in Space	①宇宙での材料加工技術 Material Processing Technology in Space ②新材料の接合技術 Welding & Joining of Advanced Material	
	博士(工学) D.Eng.	平岡 延章 HIRAKA, Nobuaki	メカトロニクス Mechatronics	①ステッピングモータを用いた機械システムの制御に関する研究 Study on Control of Mechanical Systems Driven with Stepping Motor	
	博士(工学) D.Eng.	十河 宏行 SOGO, Hiroyuki	機械力学、 モーションコントロール Dynamics, Motion Control	①機械システムの非線形制御 Nonlinear Control of Mechanical Systems ②画像処理に基づく物体形状認識システムの開発 Development of Shape Recognition System by Image Processing	
	学術博士 Ph.D.	神内 教博 JINNAI, Michihiro	音響デジタル信号処理 Digital Signal Processing	①パターン認識に関する研究 Study on Pattern Recognition ②パターン間の類似性尺度に関する研究 Study on Similarity Scale between Two Patterns	
助教 Associate Professors	博士(工学) D.Eng.	徳永 秀和 TOKUNAGA, Hidekazu	計算論的学習、 Webマイニング Computational Learning Theory, Web Mining	①進化論的計算手法によるロボットの行動学習 Robot Behavior Acquisition using Evolutionary Computation ②Webからの情報抽出 Information Extraction from the Web	
	博士(工学) D.Eng.	由良 諭 YURA, Satoshi	制御工学 Automatic Control Engineering	①神経細胞モデルの制御手法への応用に関する研究 Study on Application of Nerve Cell Model for Control Method ②モーションコントロール Motion Control	
講師 Assistant Professors	博士(学術) Ph.D.	川田 和男 KAWADA, Kazuo	制御工学 Control Engineering	①機械システムのためのインテリジェント制御に関する研究 Study on Intelligent Control for Mechanical Systems ②視覚障害者のための支援機器の開発 Development of Support Instrument for Visually Impaired	
	博士(工学) D.Eng.	逸見 知弘 HENMI, Tomohiro	制御工学 Control Engineering	①鉄棒ロボット 'Acrobot' を用いた制御実験装置の開発 Development of an Experimental Control System using a Horizontal Bar Robot 'Acrobot'	
助手 Research Associates	博士(工学) D.Eng.	正箱 信一郎 SHOBAKO, Shinichiro	溶接工学、プラズマ工学 Welding, Plasma Physics	①低圧下でのアーク放電の熱源特性に関する研究 Characteristics of Vacuum Arc Plasma as Heat Sources	
	工学修士 M.Eng.	真鍋 知久 MANABE, Tomohisa	電子工学・画像処理 Electronics・Image Processing	①画像処理を用いた物体の距離・形状認識 Distance and shapes Recognitions of the Objects by Image processing	

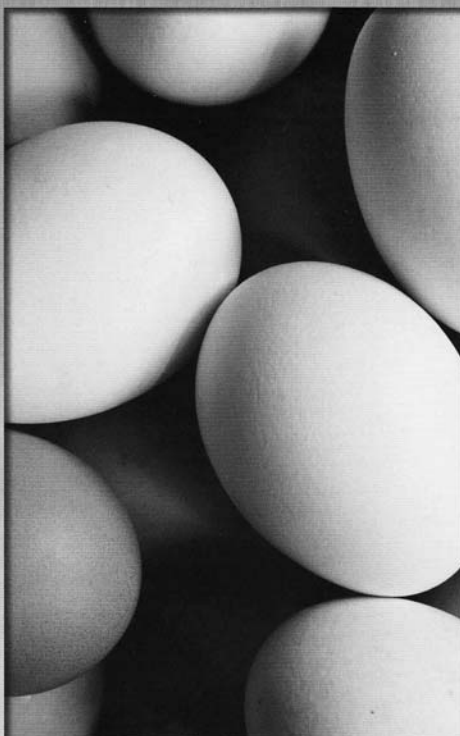
教員の研究テーマとその内容					Research Field of Faculty
職名 Title	学 位 Degree	氏 名 Name	専門分野 Research Field	研究テーマ Study Theme	
教授 Professors	工学修士 M.Eng.	春本 繁 HARUMOTO, Shigeru	構造力学、地盤工学 Structural Mechanics, Geotechnical Engineering	①浸透場にある斜面の安定計算 The stable calculation of the slope in the infiltration field ②学習到達度の評価方法 Study on the evaluation method of learning attainment level	
	工学博士 D.Eng.	竹下 治之 TAKESHITA, Haruyuki	材料工学、施工学 Materials Engineering, Construction Engineering	①コンクリート廃棄物のリサイクルに関する研究 Study on New Manufacturing Method of Concrete Aggregate from Scrapped Concrete ②粒径粒度の優れたコンクリート用人工骨材の製造に関する研究 Development of New Manufacturing Machine of Concrete Aggregate with Excellent Grain Shape and Grading	
	工学博士 D.Eng.	長友 克寛 NAGATOMO, Katsuhiro	材料工学、構造力学 Materials Engineering, Structural Mechanics	①コンクリート構造の補強・補修方法の提案およびその力学的性能の評価 Reinforcing and Repairing Methods for Concrete Structures ②プレキャストコンクリート製品の構造設計法の提案とその評価 Structural Design methods for Pre-cast Concrete Products	
	博士(工学) D.Eng.	土居 正信 DOI, Masanobu	地盤工学、岩盤力学 Geotechnical Engineering, Rock Mechanics	①土・岩盤構造物の安定性評価 Evaluation of Stability of Rock and Soil Structure ②岩盤不連続面のせん断強度特性 Shear Strength Characteristics of Rock Joint	
	博士(工学) D.Eng.	太田 貞次 OTA, Teiji	橋梁工学、合成構造 Bridge Engineering, Composite Structure	①橋梁の維持管理に関する研究 Study of maintenance and rehabilitation of bridges. ②硬質ウレタンを充填した鋼・コンクリート合成部材の構造物への適用に関する研究 Study on application of steel-concrete composite members filled with rigid Urethane to structures.	
助教授 Associate Professors	工学修士 M.Eng.	鶴本 良博 TSURUMOTO, Yoshihiro	流体力学、海岸工学 Hydromechanics, Coastal Engineering	①波動境界値問題の解析 The analysis of the wave boundary value problem	
	博士(工学) D.Eng.	向谷 光彦 MUKAITANI, Mitsuhiro	地盤工学、地域災害 Geotechnical Engineering, Region Disaster Science	①軟らかい地盤材料(粘土と砂)の力学及び調査 Mechanical characteristics and surveying of soft soils ②地域環境のIT化戦略 IT-island in Shikoku area from view point on the environmental ground	
講師 Assistant Professors	博士(工学) D.Eng.	中治 弘行 NAKAJI, Hiroyuki	耐震構造、木質構造 Earthquake Engineering, Wood Structure	①木造住宅土塗り壁の耐震性能評価 Evaluation of seismic capacity of plastered walls in wooden houses ②木造建物の耐震設計法 Seismic design method of wooden structures	
	博士(工学) D.Eng.	多川 正 TAGAWA, Tadashi	衛生工学、環境工学 Sanitary Eng., Environmental Eng.	①嫌気性微生物による産業廃水処理システムの開発 Development of an industrial wastewater treatment system by anaerobic microorganism. ②有機性廃水・廃棄物からのバイオマスエネルギー回収技術の開発 Development of the biomass energy recovery system from the organic waste and wastewater.	
助手 Research Associates		松原 三郎 MATSUBARA, Saburo	測量学、材料工学 Surveying, Materials Engineering	①高専における実験実習の補助機器改良に関する研究 Study on assistive device improvement of experiments in the technical college	
	博士(社会学) Ph.D.	渡辺 貴史 WATANABE, Takashi	都市・地域計画 緑地環境計画 Urban and Regional Planning, Landscape Planning	①都市及び都市近郊部の土地利用計画に関する研究 Development of land use management methodologies in urban and urban fringe areas ②都市及び都市近郊部緑地の環境保全機能に関する研究 Research on functions of natural settings for the conservation of ecological urban and urban fringe landscapes.	

(出典：高松高専要覧 2006)

資料 A-1-①-4 研究・技術シーズ集(I)

地域に貢献する

研究・技術シーズ(I)



高松工業高等専門学校
Takamatsu National College of Technology

- 1 ごあいさつ(学校長)
- 2 研究・技術シーズ集(Ⅰ)の刊行にあたって(研究・地域連携推進室長)
- 3 過去4年間の実績
- 4 液相からの低コスト薄膜作製・表面改質技術(岡野 寛)
- 6 塑性加工解析技術・構造解析技術(木原 茂文)
- 8 材料工学および塑性加工実験技術、「癒し」の定量評価技術(酒井 孝)
- 10 疲労試験機開発とデータベースの利用技術(岡田 憲司)
- 11 音響情報の分析と応用技術(原田 正博)
- 12 画像処理技術、信号受容能力に関する研究(本田 道隆)
- 13 大気圧低温プラズマの応用(鹿間 共一)
- 14 微細光学素子作製技術 光制御・情報セキュリティ 応用技術(荻原 昭文)
- 16 マルチメディア表現技術(重田 和弘)
- 17 インテリジェント制御応用技術(漆原 史朗)
- 18 電磁界による体内暴露評価に関する調査技術(太良尾 浩生)
- 19 生体システムの状態変化検出技術(榎本 崇宏)
- 20 気液二相流のダイナミクス&熱と流れの数値解析(山内 庄司)
- 21 宇宙溶接技術 先進接合技術(吹田 義一)
- 22 ステッピングモーターをPM型ACモータとして用いる駆動法(平岡 延章)
- 23 小型機械システムの開発 運動制御技術(十河 宏行)
- 24 進化論的計算の応用(徳永 秀和)
- 25 アドバンス制御手法を用いたメカトロニクスに関する研究(由良 諭)
- 26 リサイクル可能な自然材料を用いた木造住宅土塗り壁の耐震性能(中治 弘行)
- 28 嫌気性微生物を利用した廃水・廃棄物処理技術(多川 正)
- 30 既存不適格地盤のための簡易現地調査・室内試験技術(向谷 光彦)
- 31 技術支援室
- 31 アクセスマップ

(出典：研究・地域連携推進室資料)

資料 A-1-①-5 教員教育研究活動データベース

高松工業高等専門学校 教員教育研究活動データベース

教員情報検索

- 高松高専では、教員が自らの教育・研究を真摯に顧みると共に、併せて社会連携の活動に資することを目的として教員教育研究活動報告データベースが作成されています。
- データ項目は、教員氏名、職名、所属学科、取得学位、専門分野、研究内容を表すキーワード、主な研究業績、研究助成等取得状況、所属学会名、共同研究・受託研究、社会連携活動です。
- 内容は教員自身が適宜リニューアルしており、常にリアルタイムな情報となっています。
- 情報検索のページでキーワード等を入力することにより該当する研究分野の教員情報を検索することができます。組織から検索する場合は右側のフレームをご利用下さい。

本データベースの内容を無断転載することを禁止します。

問い合わせ先
高松高専 広報委員会
〒761-8058 高松市勅使町355
TEL : 087-869-3818
Email: webmaster@takamatsu-nct.ac.jp

- 高松高専ホームページへ

教員情報：組織からの検索

一般教育科

機械工学科

本 科 電気情報工学科

制御情報工学科

建設環境工学科

(出典：高松高専ホームページ)

資料 A-1-①-6 高機能化技術教育研究センターの Web ページ

高機能化技術教育研究センター



高機能化技術教育研究センターは昭和62年4月1日に発足した学内共同利用の研究施設であり、自由な発想に基づく教官研究をはじめ学生の先端技術教育の充実促進を図ることおよび地元企業との技術交流や技術開発援助を通して地元産業の発展に寄与することを目的としています。

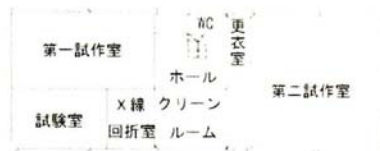
本センターは主に、試作室、計測室、試験室、クリーンルーム等で構成されており、次の6つの研究開発室(プロジェクト研究)で運用されています。

- | | | |
|---------------|----------------|-----------------|
| 1 新材料研究開発室 | 2 材料利用技術研究開発室 | 3 新エネルギー技術研究開発室 |
| 4 環境防災技術研究開発室 | 5 メカトロニクス研究開発室 | 6 教育技術研究開発室 |

研究設備は将来の技術動向を見究めながら設置されつつあり、現在主なものとして次の装置設備があります。

- 計測関係 : オージェ電子分光分析装置、電子スピン共鳴装置、走査型電子顕微鏡、引掻試験機、エリブソメータ、X線回折装置、全温度領域物性測定装置、他
- 試作・試験関係 : 高真空蒸着装置、イオンプレーティング、ホットプレス、デュアルイオンビームスパッタリング装置、大気圧コールドプラズマ発生装置、他

今後も引き続き有用な教育研究設備の充実が計画されています。
本校には、企業との受託研究、試験研究、共同研究の制度があります。



1 F



2 F

ハイテクシンポジウム

高松工業高等専門学校

(出典：高松高専ホームページ)

資料 A-1-①-7 高機能化技術教育研究センター運営委員会規程

高松工業高等専門学校高機能化技術教育研究センター運営委員会規程

平成17年3月10日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、高松工業高等専門学校内部組織規則第37条第2項及び高松工業高等専門学校高機能化技術教育研究センター（以下「センター」という。）管理運営規程第5条第2項の規定に基づき、センター運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、センターに関する次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 センターの管理運営に関すること。
- 二 センターの利用計画に関すること。
- 三 センターにおける高機能化技術に関すること。
- 四 その他センターの管理運営に関する必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

- 一 高機能化技術教育研究センター長
- 二 各研究開発室長
- 三 企画室長

2 委員は、校長が委嘱する。

(運営)

第4条 委員会に委員長を置き、高機能化技術教育研究センター長をもつて充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、企画室において処理する。

(その他)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が

定める。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典：高松工業高等専門学校規則集)

資料 A-1-①-8 高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター運営委員会規程

高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター運営委員会規程

平成17年3月10日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、高松工業高等専門学校内部組織規則第37条第2項及び高松工業高等専門学校コンピュータサイエンスセンター（以下「センター」という。）管理運営規程第5条第2項の規定に基づき、センター運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、センターに関する次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 センターの管理運営に関すること。
- 二 センターの利用計画に関すること。
- 三 その他センターの管理運営に関する必要な事項

(組織及び任期)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

- 一 コンピュータサイエンスセンター長
- 二 教務副主事又は教務主事補から1名
- 三 専攻主任から1名
- 四 一般教育科及び各学科から選出された各1名の教員
- 五 学生課長

2 委員は、校長が委嘱する。

3 第1項第4号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第4条 委員会に委員長を置き、コンピュータサイエンスセンター長をもつて充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、学生課において処理する。

(その他)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

(出典：高松工業高等専門学校規則集)

資料 A-1-①-9 技術交流会のパンフレット

学校案内図

「高松工業高等専門学校」の位置は、本図の中心に示す。

「高松工業高等専門学校」の位置は、本図の中心に示す。

構内案内図

会場 高松工業高等専門学校

- 基調講演
- シンポジウム (管理棟2階)
- ポスターセッション 自衛会館2階

お問い合わせ

高松工業高等専門学校庶務課 担当: 十河

電話: 087-869-3818 FAX: 087-869-3819

E-mail: msogou@takamatsu-nct.ac.jp

★ 参加費 無料 ★

技術交流会2005

— ITを支える薄膜技術 —

基調講演・ポスターセッション・基調報告

開催日時

会場

7月22日(金) 10:00~16:10

高松工業高等専門学校

技術交流会2005

— ITを支える薄膜技術 —

21世紀を迎えて、先端技術を中心とした技術革新は目覚ましいものがあります。本県産業界においても、エレクトロニクス、バイオテクノロジー、メカトロニクス、新素材などの分野でその動きが活発化しています。

こうした情勢のもと、研究活動の活性化ならびに地域産業の振興と展望に資することを目的として、技術交流会を開催いたします。今年度は「技術交流会2005—ITを支える薄膜技術—」と題し、薄膜技術の現状と応用について講演・研究発表を行います。

当日は、基調講演「物作りの技術革新 —薄膜、ナノテク、コンビナトリアル—」により、薄膜技術の現状と将来について展望し、午後からは産業界・学会の関係者による基調報告を行います。昼食時には、ポスターセッションによる技術研究交流会を設け、産・官・学の参加者による討議・交流の場と致します。

当交流会では、最新の学術情報および先端技術について活発な意見の交換が期待され、地域産業の技術振興と活性化に大きく寄与するものと確信しております。

是非ご参加くださいますよう、御案内申し上げます。

プログラム

I. 学校長挨拶 10:00~10:10

高松工業高等専門学校長 塩谷 幾雄

司会 木原 茂文

II. 基調講演 10:10~11:50

演題 「物作りの技術革新 —薄膜、ナノテク、コンビナトリアル—」

講師 独立行政法人 物質・材料研究機構 理事 鯉沼 秀臣氏

司会 鹿間 共一

III. ポスターセッション及び昼食会 12:00~13:30

ポスターセッション

司会 竹下 治之

○低抵抗Si基板上半導体薄膜の室温ESR測定技術および薄いLPCVD-SiN膜を

(100)Si基板上に堆積したときの界面欠陥と膜内欠陥

香川大学工学部 神垣 良昭

○大気圧低温プラズマ発生装置の開発とその応用—ZnO薄膜の作製およびETFEシートの表面処理—

香川大学工学部 須崎 嘉文

○メタルハライドランプ用セラミック発光管の材料開発

香川県産業技術センター 横田 耕三

○CFN分解によるYang-Mills理論の解析

高松工業高等専門学校 加藤 清考

○トポロジカルな自由度による2次元XY模型の解析

高松工業高等専門学校専攻科 矢野健太郎

○TiN薄膜被覆ステンレス鋼の疲労挙動について

高松工業高等専門学校 福井 智史

○微細粒純アルミニウムの結晶・力学特性データの蓄積と曲げ加工性評価へのアプローチ

高松工業高等専門学校 酒井 孝

○高分子分散型液晶を用いた情報記録用ホログラム素子の開発

高松工業高等専門学校 荻原 昭文

○協調搬送/パターン生成システムの設計法と応答特性

高松工業高等専門学校 漆原 史朗

○進化的計算手法を用いた機械システムの高度化と知能化に関する研究

高松工業高等専門学校 川田 和男

○リンク型劣駆動システムの制御

高松工業高等専門学校 逸見 知弘

○台風0416号による高松市内の高潮被害の実態と住民行動

高松工業高等専門学校 及川 康

○地盤分野における小型~高精度~多機能化への挑戦

高松工業高等専門学校 向谷 光彦

IV. 基調報告 13:50~15:30

司会 鹿間 共一

(1)「半導体分野における高純度SiC材料の開発」

発表者 東洋炭素(株) 技術開発部 基礎研究開発グループ 藤原 広和氏

司会 木原 茂文

(2)「住友のRPD(Reactive Plasma Deposition)の紹介 —RPD法によるSiO_xN_y成膜技術—」

発表者 住友重機械工業(株) 量子先端機器事業センターFPD半導体機器部 村上 喜信氏

司会 木原 茂文

(3)「大気圧低温プラズマと成膜への応用」

発表者 高松工業高等専門学校電気情報工学科 鹿間 共一氏

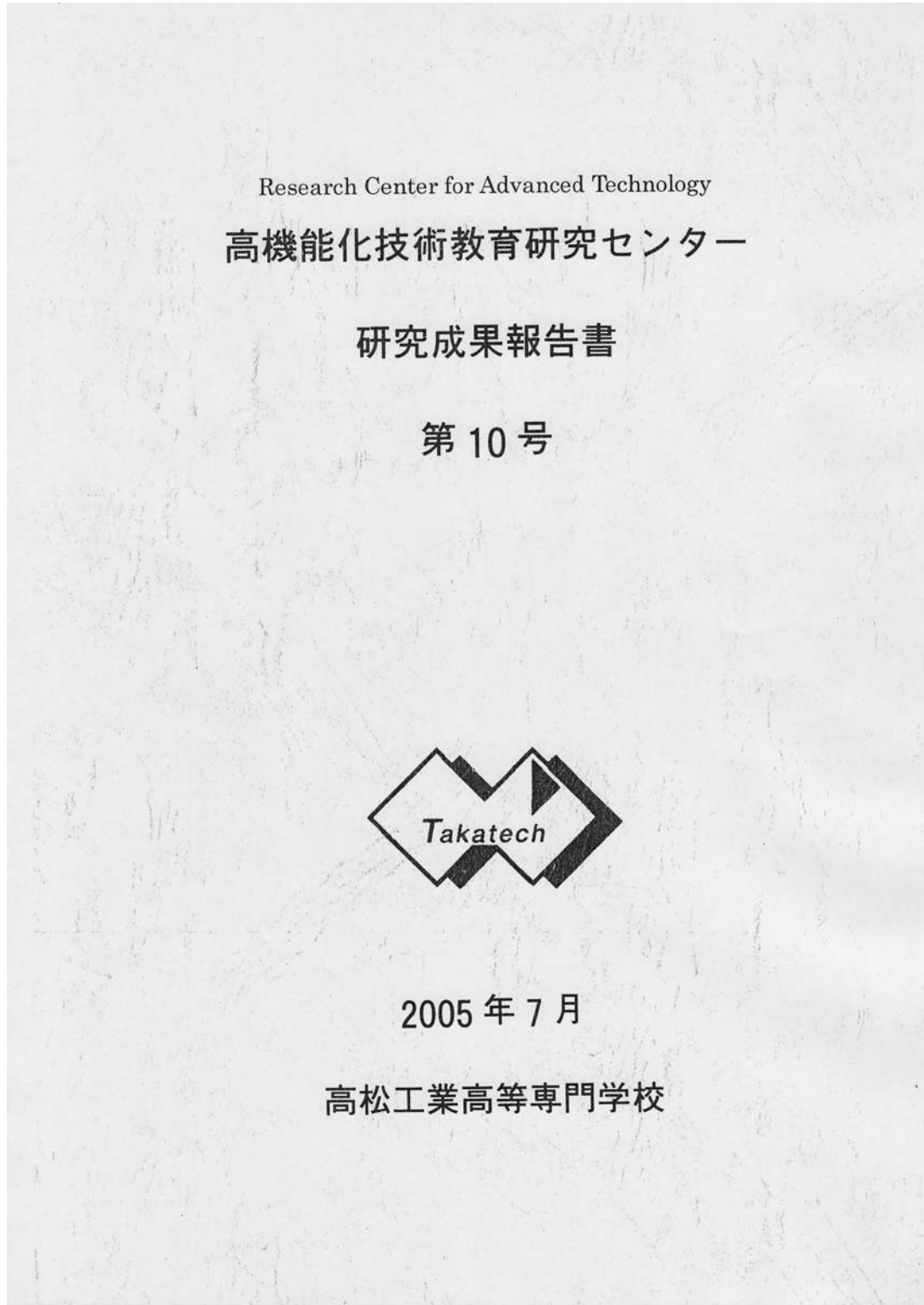
V. 学校見学会 15:40~16:10

高機能化技術教育研究センター見学

案内者 吹田 義一

(出典：研究・地域連携推進室資料)

資料 A-1-①-10 高機能化技術教育研究センター研究成果報告書



(出典：高機能化技術教育センター資料)

資料 A-1-①-11 高松工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程

高松工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程

平成18年4月1日制定

(目的)

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第9条、第11条及び高松工業高等専門学校学則第11条の規定に基づき、高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び所掌事務について定めることを目的とする。

(組織)

第2条 本校に事務部を置く。

2 事務部に総務課、学生課、施設課及び企画室を置く。

3 課及び室に係を置く。

4 学生課に技術支援室を置く。

(職制)

第3条 事務部に事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を掌理する。

第4条 課に課長を置く。

2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

第5条 課に課長補佐を置くことができる。

2 課長補佐は、課長を補佐し、課の事務を処理する。

第6条 企画室に室長を置く。

2 室長は、上司の命を受け、室の事務を処理する。

第7条 技術支援室に技術専門員及び技術専門職員を置くことができる。

2 技術専門員は、上司の命を受け、極めて高度の専門的な技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行う。

3 技術専門職員は、上司の命を受け、高度の専門的な技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行う。

第8条 係に係長を置く。

2 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

第9条 課及び室に主任を置くことができる。

2 主任は、上司の命を受け、課又は室の事務を処理する。

第10条 課員又は室員は上司の命を受け、課又は室の事務に従事する。

第11条 技術支援室に室長を置く。

2 室長は、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。

3 室長は、上司の命を受け、技術支援室の事務を処理する。

第12条 技術支援室に班長及び班員を置く。

- 2 班長は、技術専門職員をもって充てる。
- 3 班長は、上司の命を受け、班の業務を処理するとともに、班員の技術力向上に努める。
- 4 班員は、上司の命を受け、班の業務に従事する。

(総務課の所掌事務)

第13条 総務課に課長補佐(財務担当)及び次に掲げる係を置く。

総務係

人事労務係

財務係

経理係

契約係

施設係

- 2 総務課長補佐(財務担当)は課長を補佐し、会計関係事務の統括、調整に関する事務をつかさどる。
- 3 総務係は、次の事務をつかさどる。
 - 一 本校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
 - 二 機密に関すること。
 - 三 儀式その他諸行事に関すること。
 - 四 企画運営会議その他会議に関すること。
 - 五 制度及び組織に関すること。
 - 六 規則等の審査並びに制定及び改廃に関すること。
 - 七 公印の制定及び管守(会計関係を除く。)に関すること。
 - 八 公文書類の接受、発送及び整理に関すること。
 - 九 学会、協会等学術団体等との連絡に関すること。
 - 十 内地研究員及び在外研究員等に関すること。
 - 十一 渉外並びに秘書に関すること。
 - 十二 教職員の出張に関すること。
 - 十三 教職員の福利厚生(共済組合のレクリエーション関係を含む。)に関すること。
 - 十四 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 十五 校内の警備取締りに関すること。
 - 十六 その他、事務部で他の係の所掌に属しないこと。
- 4 人事労務係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 教職員の任免、給与、分限、懲戒及び服務に関すること。
 - 二 教職員の定員及び級別定数の管理に関すること。
 - 三 教職員の労働時間及び休暇に関すること。
 - 四 教職員の海外渡航に関すること。

- 五 教職員の研修及び人事評価に関すること。
 - 六 共済組合の長期給付及び退職手当に関すること。
 - 七 栄典及び表彰に関すること。
 - 八 人事記録に関すること。
 - 九 教職員の労働安全衛生管理及び災害補償に関すること。
 - 十 教職員の労働保険及び社会保険に関すること。
 - 十一 職員団体等に関すること。
 - 十二 教職員の兼業に関すること。
 - 十三 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 十四 その他、人事に関すること。
- 5 財務係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 予算及び決算に関すること。
 - 二 経理計画の総括事務に関すること。
 - 三 会計の検査及び監査に関すること。
 - 四 会計諸規程に関すること。
 - 五 会計機関の公印の管守に関すること。
 - 六 固定資産税に関すること。
 - 七 資産（不動産）の管理及び処分に関すること。
 - 八 職員宿舎に関すること。
 - 九 一般競争（指名競争）参加資格審査に関すること。
 - 十 入札執行の立会いに関すること。
 - 十一 共済組合（長期給付及び給付金の支払に関するものを除く。）に関すること。
 - 十二 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 十三 その他、会計事務で他の係の所掌に属しないこと。
- 6 経理係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 収入、支出及び計算証明に関すること。
 - 二 債権の管理に関すること。
 - 三 科学研究費補助金等外部資金の経理に関すること。
 - 四 産学連携等収入の経理に関すること。
 - 五 入札保証金、契約保証金の受払いに関すること。
 - 六 教職員の給与の支払いに関すること。
 - 七 旅費、諸謝金及び退職手当の支払いに関すること。
 - 八 共済組合の給付金（長期給付に関するものを除く。）の支払に関すること。
 - 九 日本スポーツ振興センターに係る給付金の支払に関すること。
 - 十 所掌事務に関する調査統計、報告及び関係書類の保存に関すること。
 - 十一 その他、経理事務に関すること。

7 契約係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 資産（物品（図書を除く。）以下この項において同じ。）の調達及び役務等（施設係の所掌に関するものを除く。）の契約に関する事。
- 二 資産の管理に関する事。
- 三 資産の寄附受入れに関する事。
- 四 自動車の運行に関する事。
- 五 校内の清掃に関する事。
- 六 所掌事務に関する調査統計及び報告に関する事。

8 施設係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 施設の整備計画及び環境整備に関する事。
- 二 営繕工事等の契約及び施工に関する事。
- 三 施設の整備及び管理に関する事。
- 四 防火設備の計画及び保全に関する事。
- 五 電気、ガス、水道、電話及び冷暖房施設等の維持管理に関する事。
- 六 教職員の安全管理に関する事。
- 七 所掌事務に関する調査統計及び報告に関する事。
- 八 その他、施設に関する事。

（学生課の所掌事務）

第14条 学生課に課長補佐及び次に掲げる係並びに技術支援室に技術班を置く。

教務係

学生係

寮務係

図書係

技術支援室 第一技術班

第二技術班

第三技術班

2 学生課長補佐は、課長を補佐し、学生課の事務を処理するとともに、次の事務をつかさどる。

- 一 専攻科に関する事。
- 二 技術者教育の認定に関する事。
- 三 学生関係の規則制定等に関する事。

3 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 学生課の事務に関し、総括し及び連絡調整する事。
- 二 学生募集及び入学者選抜に関する事。
- 三 学生の修学指導に関する事。
- 四 教育課程の編成、授業及び試験に関する事。

- 五 学生の学業成績に関すること。
 - 六 学生の指導要録の整理、記録及び保管に関すること。
 - 七 学生の入学、転学、留学、休学、退学及び卒業に関すること。
 - 八 学生の校外実習及び工場見学等に関すること。
 - 九 研究生及び聴講生に関すること。
 - 十 外国人留学生に関すること。
 - 十一 学生の諸証明に関すること。
 - 十二 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 十三 その他、他の係の所掌に属しないこと。
- 4 学生係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
 - 二 学生の課外活動に関すること。
 - 三 学生のカウンセリングに関すること。
 - 四 学生の表彰及び懲戒に関すること。
 - 五 入学料、授業料の減免及び徴収猶予に関すること。
 - 六 奨学金及び経済援助に関すること。
 - 七 学生の職業指導及び就職あっせんに関すること。
 - 八 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
 - 九 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
 - 十 独立行政法人日本スポーツ振興センター等に係る災害共済給付契約及び給付金の支払い請求に関すること。
 - 十一 学生旅客運賃割引証及び通学証明書に関すること。
 - 十二 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 十三 その他、学生支援に関すること。
- 5 寮務係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 学生の入退寮に関すること。
 - 二 寄宿料の債権発生及び消滅に関すること。
 - 三 寄宿料の免除に関すること。
 - 四 寮生の給食に関すること。
 - 五 寮費等の経理に関すること。
 - 六 寮生の指導監督に関すること。
 - 七 寮生の生活相談に関すること。
 - 八 学生寮の生活環境の整備に関すること。
 - 九 学生寮の厚生保健に関すること。
 - 十 学生寮の郵便物の接受に関すること。
 - 十一 学生寮における教員の宿日直勤務に関すること。

十二 学生寮における外国人留学生の指導に関すること。

十三 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。

十四 その他、学生寮の管理運営に関すること。

6 図書係においては、次の事務をつかさどる。

一 図書館情報資料の受入れ、整理及び保存に関すること。

二 図書館情報資料の閲覧、貸出し等利用に関すること。

三 図書館における教育研究活動及び情報サービスに関すること。

四 研究紀要に関すること。

五 図書費の経理に関すること。

六 図書費の契約に関すること。

七 図書の寄附受入れに関すること。

八 読書指導及び図書館の利用に関すること。

九 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。

十 その他、閲覧室・書庫の管理運営に関すること。

7 技術支援室の技術班においては、教育研究支援のため、次の業務をつかさどる。

一 第一技術班 ア 製造・加工等に関連する実験・実習に関すること。

イ その他室長が必要と認める事項

二 第二技術班 ア 電気・情報等に関連する実験・実習に関すること。

イ その他室長が必要と認める事項

三 第三技術班 ア 測定・分析等に関連する実験・実習に関すること。

イ その他室長が必要と認める事項

(施設課の所掌事務)

第15条 施設課に課長補佐及び次に掲げる係を置く。

建築係

電気係

設備係

2 施設課長補佐及び各係の所掌事務は別に定めるところによる。

(企画室の所掌事務)

第16条 企画室に次に掲げる係を置く。

企画・評価係

広報企画係

2 企画・評価係においては、次の事務をつかさどる。

一 将来構想、改革等に関する企画立案及び連絡調整に関すること。

二 自己点検・評価及び認証評価機関等による第三者評価に関すること。

三 地域連携及び研究協力（経理に関するものを除く。）に関すること。

四 科学研究費補助金（経理に関するものを除く。）に関すること。

五 法人文書の管理、個人情報保護及び情報公開の総括に関すること。

六 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。

3 広報企画係においては、次の事務をつかさどる。

一 広報に係る企画立案及び連絡調整に関すること。

二 公開講座に関すること。

三 事務の情報化に関すること。

四 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。

(その他)

第17条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。

2 高松工業高等専門学校事務組織規程（平成16年4月1日制定）及び高松工業高等専門学校事務分掌細則（平成16年4月1日制定）は廃止する。

(出典：高松工業高等専門学校規則集)

資料 A-1-①-12 研究活動の支援要請書

別紙様式 2

技術支援 室 長	第 技術 班 長

学科長等

研究活動の支援要請書

平成 年 月 日

技術支援室長 殿

要 請 者 所 属
氏 名

□

研究項目			
業務内容			
期 間	平成 年 月 日 () ~ 平成 年 月 日 ()		
時 間 帯	曜日	時 分 ~	時 分
希望担当技術職員	第 技術班		
備 考			
処 理			

※ 「処理」欄は、技術支援室で記入します。

(出典：学生課資料)

観点 A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

(i) 教育活動への還元

研究成果の教育活動への還元として、教員の資質向上（本科生、専攻科生に対する研究指導能力の向上）が挙げられる。本科卒業生や専攻科修了生は、今日における科学技術の急激な発展への適応能力が必要である。そのため、各教員は研究活動に精力的に取り組み、担当科目の知識や学生への研究指導力の向上を図っている。以下に、教員における研究活動の成果を示す。

【研究活動の成果】

本校の研究活動の成果として、学会活動や研究紀要の発行が挙げられる。

過去 5 年間に於ける学会誌投稿論文数や学会での講演発表数等の研究成果を表 A-②-1 に示す。また、研究紀要は年 1 回 3 月に発行され、理工学分野に加えて教育学、人文・社会科学等の幅広い分野において成果が掲載されている（資料 A-1-②-1）。

表 A-②-1 過去 5 年間の研究活動の成果

期 間	A	B	C	D	E	F
平成13年度	6	42	18	100	3	2
平成14年度	3	32	22	115	0	2
平成15年度	3	39	18	111	0	5
平成16年度	8	35	20	130	1	8
平成17年度	4	41	35	113	0	5
A: 著書 B: 査読付き論文 C: 査読の無い論文 D: 口頭発表及びポスターセッション E: 特許 F: その他						

【教材開発・教科書等執筆実績】

過去 5 年間の書籍等の執筆状況を表 A-②-2 に示す。

表 A-②-2 過去 5 年間の教材開発・教科書等の執筆状況

	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
執筆数	6	1	6	2	2

(ii) 地域社会への還元

【受託・共同研究，技術相談】

過去 3 年間に研究・地域連携推進室に通じた委託・共同研究および技術相談の実績は次の通りである（表 A-②-3）。

表 A-②-3 委託・共同研究および技術相談の件数の推移

年 度	共同研究	受託研究	技術相談	合 計
平成 15 年度	2	1	73	3
平成 16 年度	12	2	100	14
平成 17 年度	7	1	113	9

【四国 6 高専産学官交流会】

四国 6 高専産学官交流会は，四国 6 高専が地元企業との交流を深め，産学官連携推進に資することを目的として年 1 回 6 高専持ち回りで開催している。この交流会では，各高専からの研究成果やシーズ発表に加えて，専攻科生の取り組んでいる研究内容についてのパネル展示が行われている（資料 A-1-②-2）。

【技術交流会】

本校では，学内外の研究者を招き最先端技術に関する基調講演や報告，ポスターセッションを実施する技術交流会（表 A-②-4）（平成 16 年度にハイテクシンポジウムから名称変更）を毎年 7 月末に開催している（資料 A-1-②-3，4）。

表 A-②-4 過去 5 年間の技術交流会テーマ

年度	テーマ
平成 14 年度	21 世紀の福祉社会に向けて
平成 15 年度	産業界を支える生産加工技術
平成 16 年度	情報社会を支える光技術
平成 17 年度	IT を支える薄膜技術
平成 18 年度	四国 6 高専産学官交流会として開催

【高度技術者養成研修】

本校教員ならびに産学官から講師を招き，地域企業の技術者を対象として高度技術者養成研修を開催している。平成 18 年度においては，10 月に「香川県内橋梁の損傷状況データベース化報告と維持管理に関する一提案」，12 月に「地震と土木構造物設計の基礎知識」－南海地震対策－，「評価版でできる 3 次元有限要素法解析」と題して研修を実施した（資料 A-1-②-5）。

【研究成果の新聞記事等】

模擬宇宙での溶接技術やスーパーメタルの加工技術，平成 16 年の台風 16 号被害に対する住民意識調査等の研究成果が新聞記事などで報じられている（資料 A－1－②－6）。

(iii) 外部資金導入実績

科学研究費補助金や各種研究助成の申請数と採択状況を表 A－②－5 および 6 に示す。

表 A－②－5 過去 5 年間の科学研究費補助金の申請数，採択数

	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
申請数	19	28	20	22	24
採択数	2	6	2	3	2

表 A－②－6 各種研究助成金の採択数(平成 18 年度)

	(財)南海育英会	(株)タダノ	その他
採択数	15	5	9

(分析結果とその根拠理由)

適切である。

本校は，学会活動等の研究実績や技術交流会，高度技術者養成研修等の技術支援実績を有している。また，研究成果は専攻科生の特別研究への研究指導や地域産業との共同・受託研究に活かされ，学会論文誌や新聞報道等において掲載されている。これらの研究成果は，科学研究費補助金や南海育英研究助成金等の各種外部資金導入に反映されている。

以上のことから，研究実績や交流会などの地域への技術支援，共同研究等の実績を有していることより，研究の目的に沿った研究成果が上がっている。

資料 A-1-②-1 研究紀要

高松工業高等専門学校研究紀要 第41号 目次

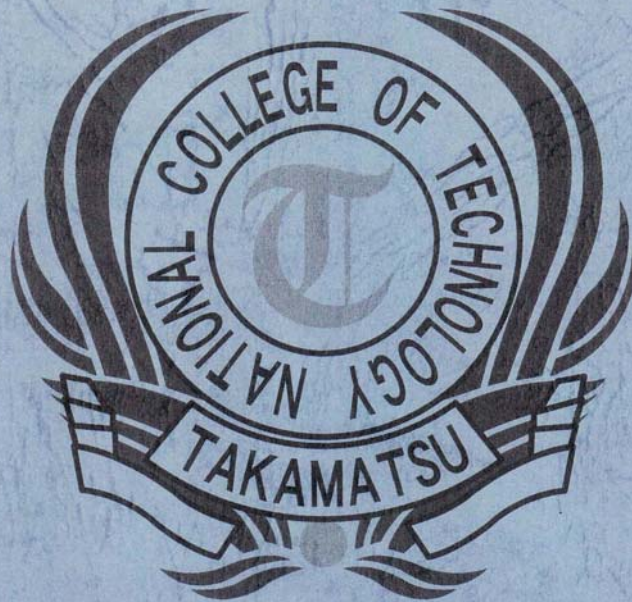
不均一濃度場における圧縮自着火燃焼過程の数値解析矢野琢潤・小島隆史1	1
モノづくり教育のネタ帖ーメカトロニクスシステム設計10年の歩みー平岡延章・吉成知己・十河宏行・由良諭・川田和男・徳永秀和・藤澤正一郎7	7
“メカトロニクスシステム設計”に対するアンケート調査結果ー卒業生からのアンケート回答よりー由良諭・平岡延章・十河宏行23	23
東三河伝統構法民家の耐震性能評価実験中治弘行・鈴木祥之・後藤正美・岩本いづみ39	39
高松高専の16年度四国共通試験(数学)結果の分析上原成功・鎌田弘・高橋宏明・中川征樹・堀江賢治45	45
Yang-Mills理論のCFN分解とゲージ不変なモノポールの構成 part I加藤清考・近藤慶一・柴田章博・篠原徹・村上武晴・伊藤祥一53	53
四国地区工業高専化学共通試験実施経過報告と今後の展開岡野寛・尾崎信一・一森勇人65	65
四国地区高専共通試験における高松高専生の英語能力の分析出淵幹郎・有道祐子・市川緑・宇野光範73	73
『春秋繁露』訳注稿 奉本・深察名號・實性・郊義・郊祭・四祭篇坂本具償・財木美樹81	81
学外発表論文概要133	133



(出典：研究・地域連携推進室資料)

資料A-1-②-2 四国6高専産学官交流会 in TAKAMATSUの冊子の表紙と目次

四国6高専 産学官交流会 in TAKAMATSU



日 時 平成18年7月31日(月) 13:00～17:00
会 場 高松工業高等専門学校 第1会議室
主 催 阿南工業高等専門学校 高松工業高等専門学校
詫間電波工業高等専門学校 新居浜工業高等専門学校
弓削商船高等専門学校 高知工業高等専門学校
後 援 四国経済産業局
財かがわ産業支援財団

目 次

1. プログラム	1
2. 講演会	2
(1) 産学官連携の現状と課題	
四国経済産業局長 塚 本 芳 昭 氏	
(2) 四国 6 高専からの成果・シーズの発表	3
「損傷を受けた板材の修復加工」	
阿南工業高等専門学校 機械工学科	
助教授 畑 中 伸 夫 氏	
「染色産業廃水の省エネルギー脱色処理システムの開発」	
高松工業高等専門学校 建設環境工学科	
講 師 多 川 正 氏	
「EB 直接描画 2 層レジストプロセスによる Cu ナノ細線の作製」	
詫間電波工業高等専門学校 電子工学科	
助教授 長 岡 史 郎 氏	
「音波式 CT による大型空間の温度分布計測」	
新居浜工業高等専門学校 電子制御工学科	
教 授 深 山 幸 穂 氏	
「多孔体の弾塑性変形解析」	
弓削商船高等専門学校 電子機械工学科	
助教授 中 山 恭 秀 氏	
「オゾンを用いたレジスト剥離ー環境負荷低減を目指してー」	
高知工業高等専門学校 物質工学科	
助教授 堀 邊 英 夫 氏	
3. 四国 6 高専パネル展示等による研究紹介	14
● 阿南工業高等専門学校（パネル展示）	14
① 「未利用竹材の有効利用に関する研究」	
② 「人命救助システムの開発」	
③ 「風力発電システムに関する研究」	
④ 「二層構造管の設計法	
ー更生した下水道管渠の力学挙動の解明と設計法の開発ー」	

● 高松工業高等専門学校（パネル展示）・・・・・・・・・・ 18

- ① 「インテリジェント制御応用技術」
- ② 「染色産業廃水の省エネルギー脱色処理システムの開発」
- ③ 「TiN 薄膜被覆ステンレス鋼の疲労挙動解析」

● 詫間電波工業高等専門学校（パネル展示）・・・・・・・・・・ 21

- ① 「PLD 法を用いた積層型透明導電膜の作製」
- ② 「Si 基板上の III-V 族化合物半導体微小発光素子の作製に関する研究」
- ③ 「EB 直接描画 2 層レジストプロセスによる Cu ナノ細線の作製」
- ④ 「木材工芸品の木目に関する研究」

● 新居浜工業高等専門学校（パネル展示）・・・・・・・・・・ 23

- ① 「携帯電話に適した IT コンテンツ製作に関する研究」
- ② 「高分子材料の加工とその応用」
- ③ 「大気開放型 MOCVD 装置による成膜技術に関する研究」
- ④ 「音波式 CT による大型空間の温度分布計測」

● 弓削商船高等専門学校（パネル展示）・・・・・・・・・・ 27

- ① 「シューズインソール開発における歩行動作の三次元計測」
- ② 「弾性体の微小すべり特性に関する研究」
- ③ 「リユーザブル吸排水ゲルシート」

● 高知工業高等専門学校（パネル展示）・・・・・・・・・・ 29

- ① 「時効硬化 Al 合金 6061-T6 の超音波疲労特性に関する研究」
- ② 「水中レーザーアニールによる結晶化促進技術開発に関する研究」
- ③ 「食品性油脂を対象とした酵素的変換プロセスに関する研究」
- ④ 「ミニ FM を用いたスポット防災情報伝達システムの構築と
四万十川川登地区における実証実験」

（出典：総務課資料）

技術交流会2005

— ITを支える薄膜技術 —

21世紀を迎えて、先端技術を中心とした技術革新は目覚ましいものがあります。本県産業界においても、エレクトロニクス、バイオテクノロジー、メカトロニクス、新素材などの分野でその動きが活発化しています。

こうした情勢のもと、研究活動の活性化ならびに地域産業の振興と展望に資することを目的として、技術交流会を開催いたします。今年度は「技術交流会2005—ITを支える薄膜技術—」と題し、薄膜技術の現状と応用について講演・研究発表を行います。

当日は、基調講演「物作りの技術革新 —薄膜、ナノテク、コンビナトリアル—」により、薄膜技術の現状と将来について展望し、午後からは産業界・学会の関係者による基調報告を行います。昼食時には、ポスターセッションによる技術研究交流会を設け、産・官・学の参加者による討議・交流の場と致します。

当交流会では、最新の学術情報および先端技術について活発な意見の交換が期待され、地域産業の技術振興と活性化に大きく寄与するものと確信しております。

是非ご参加くださいますよう、御案内申し上げます。

プログラム

I. 学校長挨拶 10:00～10:10

高松工業高等専門学校長 塩谷 幾雄

司会 木原 茂文

II. 基調講演 10:10～11:50

演題 「物作りの技術革新 —薄膜、ナノテク、コンビナトリアル—」

講師 独立行政法人 物質・材料研究機構 理事 鯉沼 秀臣氏

司会 鹿間 共一

III. ポスターセッション及び昼食会 12:00～13:30

ポスターセッション

司会 竹下 治之

○低抵抗Si基板上半導体薄膜の室温ESR測定技術および薄いLPCVD-SiN膜を

(100)Si基板上に堆積したときの界面欠陥と膜内欠陥

香川大学工学部 神垣 良昭

○大気圧低温プラズマ発生装置の開発とその応用—ZnO薄膜の作製およびETFEシートの表面処理—

香川大学工学部 須崎 嘉文

○メタルハライドランプ用セラミック発光管の材料開発

香川県産業技術センター 横田 耕三

○CFN分解によるYang-Mills理論の解析

高松工業高等専門学校 加藤 清考

○トポロジカルな自由度による2次元XY模型の解析

高松工業高等専門学校専攻科 矢野健太郎

○TiN薄膜被覆ステンレス鋼の疲労挙動について

高松工業高等専門学校 福井 智史

○微細粒純アルミニウムの結晶・力学特性データの蓄積と曲げ加工性評価へのアプローチ

高松工業高等専門学校 酒井 孝

○高分子分散型液晶を用いた情報記録用ホログラム素子の開発

高松工業高等専門学校 荻原 昭文

○協調搬送パターン生成システムの設計法と応答特性

高松工業高等専門学校 漆原 史朗

○進化的計算手法を用いた機械システムの高度化と知能化に関する研究

高松工業高等専門学校 川田 和男

○リンク型劣駆動システムの制御

高松工業高等専門学校 逸見 知弘

○台風0416号による高松市内の高潮被害の実態と住民行動

高松工業高等専門学校 及川 康

○地盤分野における小型～高精度～多機能化への挑戦

高松工業高等専門学校 向谷 光彦

IV. 基調報告 13:50～15:30

司会 鹿間 共一

(1)「半導体分野における高純度SiC材料の開発」

発表者 東洋炭素㈱ 技術開発部 基礎研究開発グループ …………… 藤原 広和氏

司会 木原 茂文

(2)「住友のRPD(Reactive Plasma Deposition)の紹介 —RPD法によるSiOxNy成膜技術—」

発表者 住友重機械工業㈱ 量子先端機器事業センターFPD半導体機器部 …………… 村上 喜信氏

司会 木原 茂文

(3)「大気圧低温プラズマと成膜への応用」

発表者 高松工業高等専門学校電気情報工学科 …………… 鹿間 共一氏

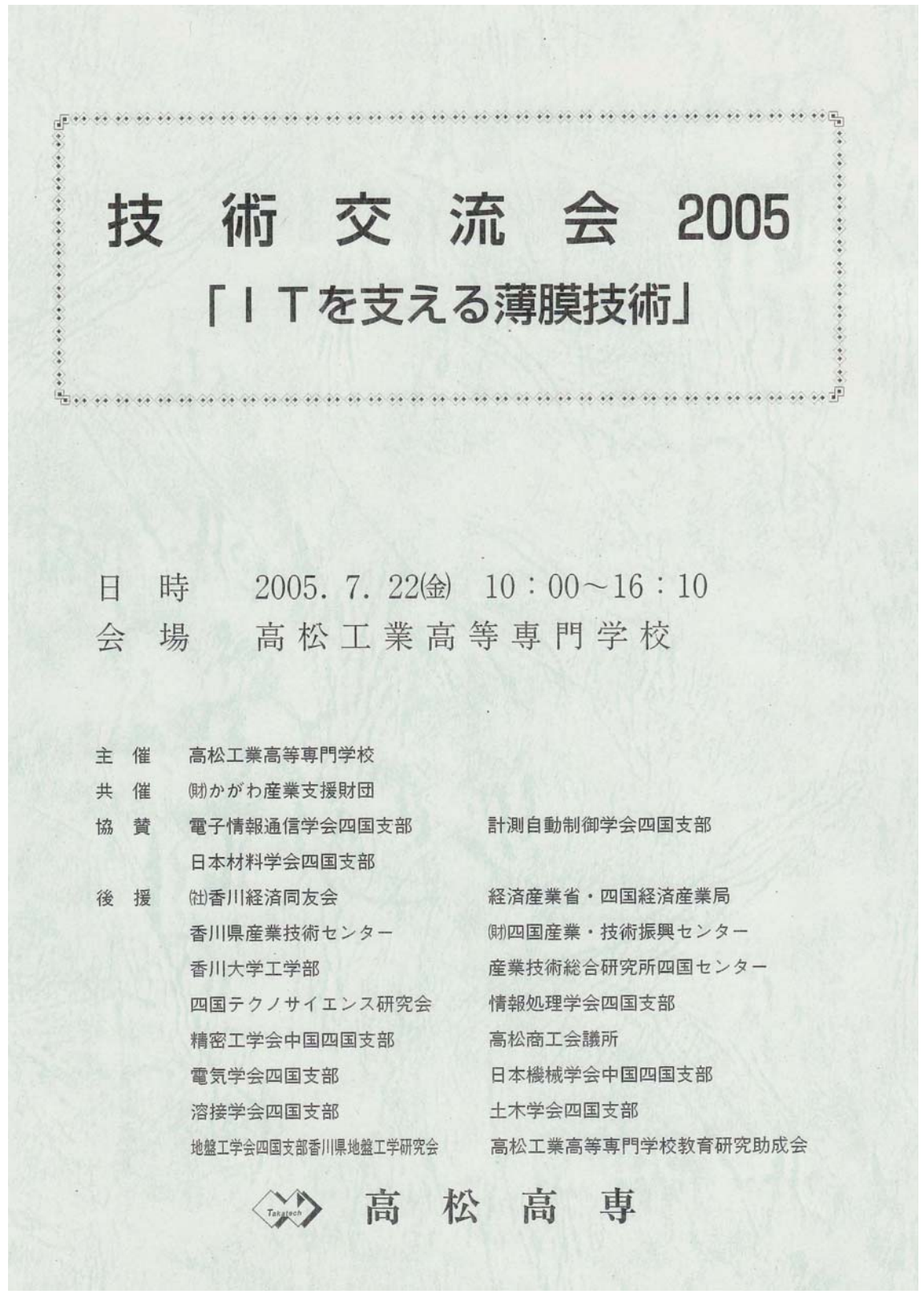
V. 学校見学会 15:40～16:10

高機能化技術教育研究センター見学

案内者 吹田 義一

(出典：研究・地域連携推進室資料)

資料A-1-②-4 技術交流会2005の冊子の表紙と目次



目 次

1. 基調講演	司会 鹿間 共一	
演 題 「物作りの技術革新 ―薄膜、ナノテク、コンビナトリアル―		1
講 師 独立行政法人 物質・材料研究機構 理事 鯉沼 秀臣 氏		
2. 基調報告	司会 鹿間 共一	
(1)「半導体分野における高純度SiC材料の開発」		9
発表者 東洋炭素(株) 技術開発部 基礎研究開発グループ 藤原 広和 氏		
(2)「住友のRPD (Reactive Plasma Deposition) の紹介 ―RPD法によるSiO _x N _y 成膜技術―	司会 木原 茂文	17
発表者 住友重機械工業(株) 量子先端機器事業センターFPD半導体機器部 村上 喜信 氏		
(3)「大気圧低温プラズマと成膜への応用」		23
発表者 高松工業高等専門学校電気情報工学科 教授 鹿間 共一		
3. ポスターセッション	司会 竹下 治之	
○「低抵抗Si基板上半導体薄膜の室温ESR測定技術および薄いLPCVD-SiN膜を(100)Si基板上に堆積したときの界面欠陥と膜内欠陥」		35
香川大学工学部 神垣 良昭 氏		
○「大気圧低温プラズマ発生装置の開発とその応用 ―ZnO薄膜の作製およびETFEシートの表面処理―		39
香川大学工学部 須崎 嘉文 氏		
○「メタルハライドランプ用セラミック発光管の材料開発」		41
香川県産業技術センター 横田 耕三 氏		
○「CFN分解によるYang-Mills理論の解析」		45
高松工業高等専門学校 加藤 清考, 千葉大学理学部 近藤 慶一 氏 KEK 柴田 章博 氏 千葉大学大学院自然科学研究科 篠原 徹 氏, 村上 武晴 氏		
○「トポロジカルな自由度による2次元XYモデルの解析」		48
高松工業高等専門学校 矢野健太郎, 加藤 清考		
○「TiN薄膜被覆ステンレス鋼の疲労挙動について」		51
高松工業高等専門学校 福井 智史, 洲脇 隆人		
○「微細粒純アルミニウムの結晶・力学特性データの蓄積と曲げ加工性評価へのアプローチ」		55
高松工業高等専門学校 酒井 孝, 高橋 良輔, 丸笹 憲志		
○「高分子分散型液晶を用いた情報記録用ホログラム素子の開発」		57
高松工業高等専門学校 荻原 昭文, 亀田 圭以		
○「協調搬送パターン生成システムの設計法と応答特性」		59
高松工業高等専門学校 漆原 史朗, 鈴木 浩司		
○「進化的計算手法を用いた機械システムの高度化と知能化に関する研究」		61
高松工業高等専門学校 川田 和男		
○「リンク型劣駆動システムの制御」		65
高松工業高等専門学校 逸見 知弘		
○「台風0416号による高松市内の高潮被害の実態と住民行動」		71
高松工業高等専門学校 及川 康		
○「地盤分野における小型～高精度～多機能化への挑戦」		75
高松工業高等専門学校 向谷 光彦, 寺尾 直城, 岡崎 芳行 日本興行(株) 松山 哲也 氏, 右近 雄大 氏 開発コンクリート(株) 藤原 保夫 氏		

(出典：研究・地域連携推進室資料)

資料A-1-②-5 高度技術者養成研修の実施状況

●高度技術者養成研修		開催日	参加者数	定員
H14	斜面の安定性評価 ―そこが知りたい！安定解析のツボ―	2002. 10. 3(木)・4(金)	11	20
H15	原位置・土質試験の方法とデータの取扱い ―土のイロハのイから初めよう―	2003. 12. 5(金)	13	
H18	香川県内橋梁の損傷状況データベース化報告と維持管理に関する一提案 ―「橋の長寿命化に関する勉強会」成果報告会―	2006. 10. 4(木)	66	160
H18	地震と土木構造物設計の基礎知識 ―南海地震対策―	2006. 12. 21(木)	14	20
H18	評価版でできる3次元有限要素法解析 (共催：香川県産業技術センター 香川県システム技術研究会 (財)かがわ産業支援財団)	2006. 12. 25(月)～26(火)	11	15

(出典：高松高専要覧2006)

資料A-1-②-6 研究成果の新聞報道状況

真空での溶接技術を開発

高松高専
教授

宇宙ステーションの修復作業に活用できる溶接技術の実験が11日から、愛知県で始まる。高松高専（高松市）の吹田義一教授（57）が開発。真空状態で安全に溶接できる技術は世界的に未開発で、宇宙で建造中の国際宇宙ステーション（ISS）で日本の実験棟開発を担当する宇宙航空研究開発機構（JAXA）も注目している。

吹田教授によると、いん石の衝突などで宇宙ステーションが損傷時、真空での溶接補修が必要。しかし、旧ソ連などが開発した電子ビームを使った方法では宇宙服に穴が開くなど危険で、その後は技術が開発されていない。さらにISSは地上から運びやすい軽量のアルミニウム合金を使っているが、合金

の製造過程で表面に溶接を妨げる酸化膜ができるため、真空での溶接は困難という。

吹田教授は、特殊な電源装置でアルミ表面に衝撃を与えて酸化膜を除去し、真空での溶接を可能にする実験に成功。文部科学省の認可法人「日本宇宙フォーラム」が審査する公募研究で、今回の実験が採用された。航空機に学生数人が乗り、急降下、急上昇して無重力状態になる約20秒間に装置を使い、アルミ合金の筒2本を溶接する。JAXAのJEM開発・運用プロジェクトチームの今川吉郎サブマネジャーは「宇宙飛行士の安全確保などの点で優れており、効率やコストなどの課題をクリアすれば、将来は十分実用化できる」としている。【南文校】

宇宙ステーションなど修復に活用目指す

（出典：毎日新聞：掲載3月7日）

研究の現場から



スーパーメタルの特性を調べる酒井講師ら

スーパーメタルの加工特性研究

高松高専の酒井講師研究室（高松市勸使町）の酒井孝講師（34）の研究室（www.sakurai.ac.jp）は、最先端の金属材料「スーパーメタル」の加工特性を調べている。

従来は、合金化で金属の強度を上げてきたが、元素の分離が難しくリサイクル性に乏しい問題点があった。国家プロジェクトとして研究開発された「スーパーメタル」は、金属材料の結晶を微細化することで高強度を実現。使用量を減らすメリットが生まれ、自動車、航空機などでは軽量化による燃料節減など省エネ効果もあり、近い将来の流通が期待されている。

酒井研究室では、この新金属を実際に材料加工メーカーが扱えるよう、変形しやすい塑性加工特性、特に「曲げ特性」を調べている。微細化したアルミ、銅、鉄などの曲げ実験や引っ張り実験のほか、微細化の方法や条件をコンピュータで解析。現在は結晶の向きがそれぞれの特性にどう影響するか、特別な顕微鏡で研究を進めている。

酒井講師は「市場にスーパーメタルが流通する前に、加工可能な技術を実用化させたい」と話している。【高橋恵子】

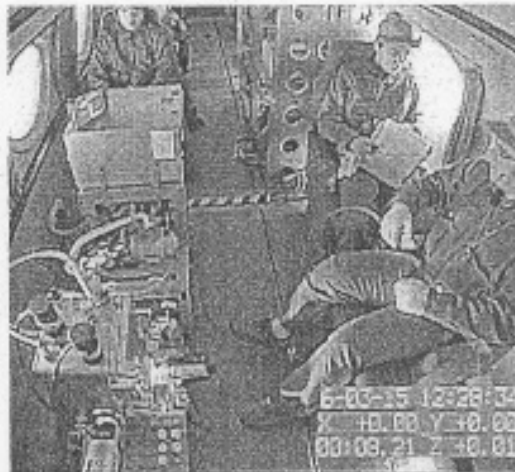
（出典：毎日新聞 掲載4月12日）

模擬宇宙で溶接成功

宇宙ステーションや有人惑星探査機の修復などで将来は必要になるとみられる無重力、真空でのアルミニウム溶接の実験に高松工業高専（高松市）の吹田義一教授が成功した。航空機の落下で無重力状態をつくり、機内の真空の箱の中で溶接した。高専発の技術に宇宙航空研究開発機構（JAXA）も関心を示している。

高松高専 教授 ステーション修復も

国際宇宙ステーション（ISS）の日本実験棟を担当するJAXAによると、ISSは溶接を使った建設計画はないが、完成後に腐食などの衝突で損傷し、溶接で修復しなければならないケースはありえるという。地上では、放電による高熱で金属を溶かすアーク溶接という溶接法が代表的だ。しかし、宇宙空間では放電が難しく、溶接に成功した。ISSに



多用されるアルミニウムは、表面に酸化膜ができ、溶接できなかつたが、放電を断続的にし、その衝撃で酸化膜を粉砕することを考えた。実験ではエンジン停止後、吹田教授は放電に使う電極に穴を開け、溶接部に向けてアルゴンガスを噴射する方法を考案、98年にステンレスの溶接実験に成功した。ISSに

①無重力状態となった機内で、真空装置を使って溶接実験に取り組む高松高専の学生＝吹田教授提供②溶接に成功したアルミ管（左）と従来の方法で溶接したアルミ管＝高松市の高松高専で

（出典：朝日新聞 掲載日4月13日）

地域のニュース

毎日新聞

(第3版第1面掲載)

「世界の宇宙開発に役立てたい」

吹田義一・高松高専教授

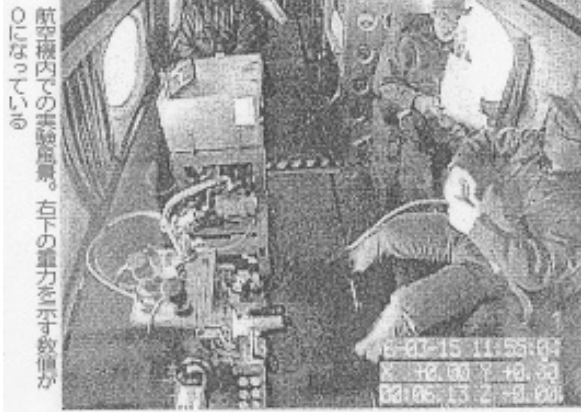
高松高専(高松市)の吹田義一教授(57)が、無重力・真空状態での溶接技術の高度化・真空状態で金属を溶接する技術の実験・実用化を目指す。将来、宇宙空間での溶接技術が実用化できる道筋が付き、世界で初めて開発した技術で、建造中の国際宇宙ステーション(ISS)の修繕などに活用が期待される。ISSは、日本や欧州各国などが協力して建造中。いん石の衝突などで

ISSが損傷した際、真空中で補修する溶接技術が必要。旧ソ連などが電子ビームを使った技術を開発したが、宇宙に穴が開くと危険で、開発は進んでいなかった。

無重力・真空状態で

アルミの溶接実験成功

特殊な電源装置使用し 表面に衝撃与え可能に



航空機内での実験風景。右下の重力を示す数値が0になっている。

また、ISSは地上から持ち運びやすいアルミニウム合金を使っておき、合金の製造過程で表面に溶接を妨げる酸化膜がでるため、真空状態での溶接は困難。吹田教授は特殊な電源装置でアルミ表面に衝撃を与えて酸化膜を除去し、真空中での溶接を可能にした。

今回の実験は文部科学省の認可法人「日本宇宙



特殊な電源装置を使って溶接したアルミニウムの筒(左)と一般の電源を使って溶接した筒を比べる吹田教授

高松高専で

フォーラム」が審査する公募研究で採用された。3月11日から17日にかけて、愛知県豊山町で行った。実験には、吹田教授や学生ら12人が参加。航空機に学生5人が乗り、高度6000メートルから1分間の間で急降下、急上昇し、機内が無重力になる約20秒間に、装置を使って直径3センチ、長さ5センチのアルミの筒2本を溶接した。

実験で溶接した計26本の筒を調べたところ、表面の酸化膜が除去され、均質に溶接されていた。一般の電源を使った実験の間で急降下、急上昇し、機内が無重力になる約20秒間に、装置を使って直径3センチ、長さ5センチのアルミの筒2本を溶接した。

できないことも確認。特殊な電源装置を使えば、模擬宇宙空間で溶けた金属が無重力で飛散しないことも証明された。実験結果を踏まえ、7月末には、模擬宇宙空間で溶接の強度を高める溶剤を使った実験を行う。吹田教授は、今回の実験成果を今秋に開かれる溶接学会の全国大会で発表する予定。一次の実験も成功させ、日本独自の溶接技術を世界の宇宙開発に役立てたい」と意気込んでいる。【南文枝】

(出典：毎日新聞 掲載4月13日)

明日へ

四国の視点

⑪

2004年の西国地
域豪雨・高潮災害から
かなりの時間が経って
しまった。人間の記憶
というのはいまい
で、もう生きているう
ちは大丈夫だろうと
か、南海地震の被害も
きつと小さいに違いな
いといった根拠のない
安心感を求めているの
ではないだろうか。残
念なこと、最近の地
震被害や豪雨高潮災害

の聞き取り調査、継続
観測を行っている、
何らかのウィークポイ
ント（弱点）に被害が
集中することが分かっ
てきた。

その原因は、社会資



高松工業高等専門学校
建設環境工学科
向谷光彦
助教授

向谷光彦

助教授

防災インフラシステムづくりを

本整備の遅れや普及か
らの点検整備、あるいは
住民意識や対応行動
まで、多種多様であ
る。そして、被害事例
を教訓とするために多
くの調査研究が行われ
ても、その後の生活様

式や社会情勢の激変に
よって、研究成果が役
に立たないことさえあ
る。防災・減災といっ
た問題は、普及からも
っと地域住民に根付い
た地道な活動でなけれ
ばならないことが分か

このシステムの最も
大切な要件は、防災へ
の関心である。普及か
ら防災インフラシステ
ムのつながりを密にし
ておいて、緊急時には
想定しておいた行動を
各地域で展開すること
になる。学術
会や教育機関
は、地域貢献と
して情報提供の
場になり、さまざまな
職種、年齢の人たちに
よって構成される学び
の共同体として、防災
インフラシステムを支
援する取り組みが求め
られるだろう。

ってきた。災害の歴史
を風化させないために
は、各地域で人から人
へ継承される『防災イ
ンフラシステム』のよ
うなシステム作りが急
務である。

(出典：建通新聞 掲載4月18日)

観点 A－1－③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校の委員会組織は平成 16 年度に大幅に見直され（委員会の整理，統合，新設），平成 17 年度より新体制での委員会活動を実施している。改善システムは，研究活動の中長期目標設定等の将来計画，予算や施設利用計画などの計画（Plan）と研究活動を行う実施（Do），研究活動の目標到達度を確認する評価（Check）で構成されている（資料 A－1－③－1）。また，各部における審議事項や立案に対しては企画運営会議にて審議され，基本方針等が決定される。

研究活動の計画は，将来構想検討委員会で審議された将来計画に基づき，整備・利用計画については各施設運営委員会にて，予算の有効利用や予算配分について財務委員会で検討される。研究活動に係わる基本方針に対して具体的な対策や計画を講じる実行組織として研究・地域連携推進室と企画室が機能している。

研究活動の主体は各教員であるが，研究活動の実質的支援組織として技術支援室がある。また，教員による研究成果は総務・広報室を通じて Web ページや広報誌として外部に情報提供される。また，知的財産の管理活用方法等については知的財産委員会にて審議される。前述の CS センター運営委員会，高機能化技術研究センター運営委員会にて予算計画に応じて研究環境の整備が図られている。

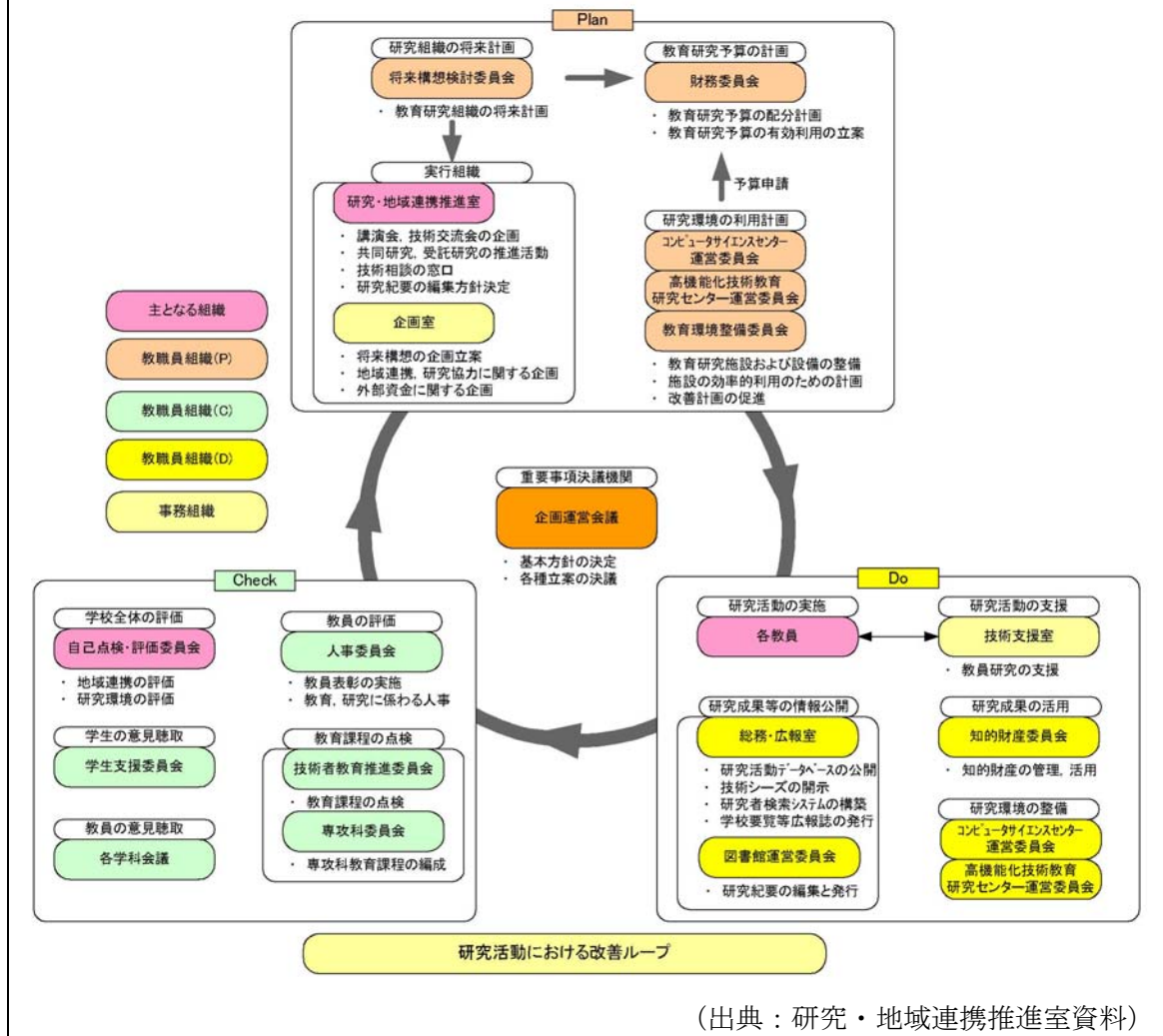
研究活動の評価組織は，自己点検・評価委員会等で構成されている。自己点検・評価委員会は確認部の主となる組織であり，学校全体の評価を行っている。また，各委員会組織は必ず各学科の教員を含む構成であることから，各教員の意見は各学科会議にて集約され関係委員会にて審議事項として反映されることになる。このような改善システムを継続的に機能させることにより，研究活動等の実施状況や問題点を把握し，改善を図ることができる。

(分析結果とその根拠理由)

適切である。

本校の委員会組織は平成 16 年度に大幅に見直され（委員会の整理，統合，新設），平成 17 年度より新体制での委員会活動を実施している。研究活動等の実施状況や問題点については把握され，それらを改善するための体制は整っており，今後とも，機能強化のために一層の継続的な努力が必要である。

資料 A-1-③-1 研究活動における改善システム



(2) 優れた点および改善を要する点

優れた点

- ・ 主として教員により構成される研究・地域連携推進室と事務組織である企画室により研究活動、地域との共同研究の推進を図る体制が整っている。
- ・ 研究・技術シーズ集(I)や研究者・技術情報データベースなどを学外に公開し、地域との連携を図っている。
- ・ 四国 6 高専産学官交流会や技術交流会、高度技術者養成研修等の技術支援実績を有し、研究成果を地域に還元している。

改善する点

研究活動等の実施状況や問題点については把握され、それらを改善するための体制は整っており、今後とも、機能強化のために一層の継続的な努力が必要である。

(3) 選択的評価事項 A の自己評価の概要

本校は、学会活動等の研究実績や技術交流会、高度技術者養成研修等の技術支援実績を有しており、研究成果は専攻科生への研究指導や地域産業との共同・受託研究に活かされ、学会論文誌等において掲載されている。また、研究体制としては、研究・地域連携推進室と企画室を実行組織としての位置付けを明確にし、機能している。学内外における研究活動の連携についても、研究・地域連携推進室が中心となり、本校の専門分野を活かした体制を整備している。施設についても、高機能化技術教育研究センター、コンピュータサイエンスセンター、実習工場などの共同利用施設を配置し、活用されている。研究支援体制としては、技術支援室により教員の研究活動や地域からの技術相談等において支援にあたり、地域連携および研究協力の事務的処理を企画室にて行っている。

以上のことから、研究の目的に沿った研究体制と支援体制が整備され、研究実績や交流会などの地域への技術支援、共同研究等の実績を有していることより、研究の目的に沿った研究成果が上がっている。研究活動等の実施状況や問題点については把握され、それらを改善するための体制は整っており、今後とも、機能強化のために一層の継続的な努力が必要である。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況はおおむね良好である。

実施内容に関しては

- 教育のための研究活動
- 地域社会のための研究活動

という 2 つの目的をほぼ達成しているものの、研究活動における改善システムの継続的活動実績が必要であることから「目的の達成状況はおおむね良好である」と判断する。

IV 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

1 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本校では、本校がもつ人的・物的資源を地域社会へ還元することで、生涯学習や地域の人材教育に貢献し、あわせて本校の学生の教育に役立てることを目的とし、正規学生以外に対して、「公開講座」「サテライトキャンパス」「サイエンスフェスタ」「出前授業」「施設開放」などの教育サービスを実施している。

2 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

1. 教育サービスの計画

(i) 組織

公開講座等の、正規課程の学生以外に対する教育サービスを担当する組織として、研究・地域連携推進室を設置している。研究・地域連携推進室は、平成17年度に従来の「リフレッシュ教育推進センター」、「研究委員会」、「公開講座委員会」を発展的解消し組織化したものであり、研究・地域連携推進室規程（資料B-1-①-1）により、「研究・地域連携の推進に関する必要な業務を実施する」と明記されている。

メンバーは校長補佐である室長を中心に、各学科及び付属施設の代表で構成されている。また、研究・地域連携推進室を事務的にサポートする部署として、企画室を設置している。高松高専事務組織及び事務分掌規程（資料B-1-①-2）によると、企画室は「地域連携に関すること」及び「公開講座に関すること」を担当すると定められている。

また、上記と別の活動として、教務主事を中心とし、教務主事補と各学科の代表とで組織された教務委員会では、事務担当の学生課教務係とともに、出前授業、オープンキャンパス、科目等履修生などの、正規学生以外に対するサービスを企画運営（資料B-1-①-3）している。更に総務課財務係では、一般市民を対象とした、学内施設の公開に関する窓口業務を実施している。

(ii) 具体的方策と実施手順

各種教育サービスについては、新年度始めに前述した各担当組織の委員長より教職員に対して、実施案の募集（資料B-1-①-4）を行い、それに基づいて審議していくことを基本としている。

公開講座については、研究・地域連携推進室から各教員に公開講座開設の希望調査を行い、希望教員から提出された内容（資料B-1-①-5）を基に開催講座を決定している。募集は学内のホームページ（資料B-1-①-6）や高松市報、地元のフリーペーパーなど（資料B-1-①-7）への掲載により行っている。また、公開講座の一環として、地域産業界への貢献を目的に、高度技術者養成研修も公開講座の一環として、同様の手順で企画・実施している。

また、学外の教養施設などを利用して本校教員が講師を勤めるサテライトキャンパスも、同様の手順で実施している。サテライトキャンパスは、高松市との合同開催と言う位置づけで、本校ホームページ（資料B-1-①-8）や高松市の広報誌（資料B-1-①-9）などで参加者を募集している。

科学技術の面白さを伝える一環として、近隣の一般社会人が多数来校する学生祭期間中に実施するサイエンスフェスタについては、新年度始めに研究・地域連携推進室の下部組織として、サイエンスフェスタ実行委員会を組織（資料B-1-①-10）し、学生会とも協力しながら、テーマや実施内容を決定している。日程は学生祭と合わせて前年度末までに決定し、学校行事予定表にも掲載されている。

地元小中学生に科学の面白さを伝えるため、また地域社会の活性化に貢献するため、地域社会からの要請により小学校や商店街においてミニサイエンスフェスタを実施している。これは研究・地域連

携推進室と一般教育科・理科担当教員が中心となり地元商店街と協力し企画運営しているが、実務は学生により結成された実行委員会（資料B-1-①-11）により行われている。実施広告として、ホームページや（資料B-1-①-12）新聞広告（資料B-1-①-13）、更にプレス用資料（資料B-1-①-14）も準備している。

出前授業は、新年度始めに教務委員会で審議企画の後、各教員1テーマを提出し、地元中学校に実施内容を送付（資料B-1-①-15）し、依頼があるたびに実施している。民間企業への出前授業も積極的に実施しており、平成18年度には食品機械メーカーと協定を締結（資料B-1-①-16）し、講師を派遣している。

オープンキャンパス（体験入学）については、新年度始めに教務委員会で審議企画（資料B-1-①-17）の後、各教員から実施内容が提出され、毎年8月下旬から9月上旬の時期に、学校見学会と同時に開催している。実施日時については、前年度末までには決定し学校行事予定表にも掲載されている。

科目等履修生は、半期単位で随時募集している。担当は学生課教務係（資料B-1-①-18）である。

施設開放は、学内の施設の有効利用という観点から、学内ホームページに公開施設と利用料金を掲載（資料B-1-①-19）し随時募集している。また、図書館において、開館中は常時一般市民を受け入れている（資料B-1-①-20）。

2. 教育サービスの実施例

（i）公開講座

平成18年度は3件の公開講座が実施された（資料B-1-①-21）。

（ii）高度技術者養成研修

平成18年度は3件の高度技術者養成研修が実施された（資料B-1-①-22）。

（iii）サテライトキャンパス

平成16年度に2件、平成17年度に1件のサテライトキャンパスが開催された（資料B-1-①-23）。

（iv）サイエンスフェスタ

毎年学生祭と同時開催され、平成18年度で20回目を迎えた。また、平成16年度からは、地元小中学生の理科作品の展示会も同時開催している（資料B-1-①-24）。

（v）ミニサイエンスフェスタ

平成16年度から、地元商店街の活性化計画の一環として、商店街での科学イベントを開始した。（資料B-1-①-25）平成18年度で3回目となる。また地元小学校からのリクエストにより、毎年数回、小学校での科学イベントを実施している。

（vi）出前授業

平成15年度から地元中学校を対象に出前授業を開始している。（資料B-1-①-26）平成18年

度には、食品機械メーカーへ24回の出前授業を実施した（資料B-1-①-27）。

（vii）オープンキャンパス

平成17年度は、9月の2日間で実施した。（資料B-1-①-28）参加人数は、延べ380名であった。

（viii）科目等履修生

ここ数年で数人が学外及び専攻科から履修している（資料B-1-①-29）。

（ix）施設開放

構内施設（体育館、運動場 等）の学外者への貸出を行っている（資料B-1-①-30）。図書館においては、学外者へも貸し出している（資料B-1-①-31）。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

公開講座をはじめ、正規学生以外に対するさまざまなサービスが年間を通して多数計画され実施されている。

資料B－1－①－1 研究・地域連携推進室規程

高松工業高等専門学校研究・地域連携推進室規程

平成17年3月30日制定

(趣旨)

第1条 高松工業高等専門学校（以下「本校」という。）に高松工業高等専門学校研究・地域連携推進室（以下「研究・地域連携推進室」という。）を置く。

(目的)

第2条 研究・地域連携推進室は、教員の研究意識の高揚を図り、民間企業等との共同研究等を推進することにより、本校の教育研究活動の一層の活性化を図り、社会的貢献と地域産業への寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 研究・地域連携推進室は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 受託研究及び共同研究の推進に関すること。
- 二 研究成果の活用及び技術相談に関すること。
- 三 講演会・技術交流会及び技術相談に関すること。
- 四 研究紀要の編集方針に関すること。
- 五 その他研究・地域連携の推進に関する必要な業務

(出典：研究・地域連携推進室規程第3条)

資料B－1－①－2 事務分掌規程

第16条 企画室に次に掲げる係を置く。

企画・評価係

広報企画係

2 企画・評価係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 将来構想、改革等に関する企画立案及び連絡調整に関すること。
- 二 自己点検・評価及び認証評価機関等による第三者評価に関すること。
- 三 地域連携及び研究協力（経理に関することを除く。）に関すること。
- 四 科学研究費補助金（経理に関することを除く。）に関すること。
- 五 法人文書の管理、個人情報保護及び情報公開の総括に関すること。
- 六 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。

3 広報企画係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 広報に係る企画立案及び連絡調整に関すること。
- 二 公開講座に関すること。
- 三 事務の情報化に関すること。
- 四 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。

（その他）

（出典：事務分掌規程第16条）

資料B－1－①－3 教務委員会規程

高松工業高等専門学校教務委員会規程

平成17年3月10日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、高松工業高等専門学校内部組織規則第19条第2項の規定に基づき、高松工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、教務に関する次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 本科教育課程の編成・実施に関すること。
- 二 本科の科目履修・成績処理に関すること。
- 三 授業の一環としての学校行事に関すること。
- 四 本科入学試験・編入学試験の実施及び運営に関すること。
- 五 大学及び専攻科への編入学の推薦基準に関すること。
- 六 入学生の受入に関すること。（オープンキャンパス，中学校訪問，出前授業を含む。）
- 七 研究生，聴講生，特別聴講学生及び科目等履修生の受入と教育課程に関すること。（留学生の教育課程を含む。）
- 八 学生の授業評価に関すること。
- 九 その他本科教務に関する必要な事項

(出典：教務委員会規程第2条)

資料B－1－①－4 公開講座等の募集要項

平成 18 年 4 月 26 日（水）

研究・地域連携推進室

委員各位

研究・地域連携推進室長

本来ならば、委員会を開催してお知らせならびにご依頼すべきことではありますが、時間がございましたので、このような形でお願いすることにさせていただきます。ご容赦ください。

お忙しいところ申しわけありませんが、以下の2点について、ご対応の程宜しく願います。

I. 平成18年度公開講座について

- 所属学科において、少なくとも1件の公開講座の計画をお願いします。（昨年度は3件）
- 複数学科共同でもよい
- 次回の学科会で話しをしていただき、以下について、5月19日（金）午後5時までに土居宛にご連絡してください。（過去の高専だより第94号、97号などをご参照ください。）
 - ・ 講座の名称
 - ・ 講座開催の日時
 - ・ 講座の概要
 - ・ 担当講師
 - ・ 申込期間
 - ・ 定員および受講料
 - ・ 受講対象者
 - ・ 会場

（出典：研究・地域連携推進室資料）

資料B－1－①－5 公開講座開催希望の通知文書

> 岡野先生
 >
 > 8/6（日）に例年通り小学生対象公開講座をおこないたいと思います。よろしくお
 願
 > いします。
 >
 > 吉澤
 >
 > -----Original Message-----
 > From: Hiroshi Okano [mailto:okano@takamatsu-nct.ac.jp]
 > Sent: Wednesday, April 26, 2006 2:18 PM
 > To: ippan@takamatsu-nct.ac.jp
 > Subject: 募集：18年度公開講座について
 >
 > 一般教育教員各位
 >
 > 岡野@化学です。
 >
 > 研究・地域連携推進室からのお知らせです。
 >
 > 今年度、公開講座を計画してくださる方は、下記の事項を、5月18日（木）まで
 に、
 > 岡野までご連絡下さい。
 > 各学科、1件以上と言うことですので、ご協力お願いします。
 > 詳細は添付ファイルをご覧ください。
 >
 >
 > 講座の名称
 > 講座開催の日時
 > 講座の概要
 > 担当講師
 > 申込期間（空白可）
 > 定員および受講料
 > 受講対象者
 > 会場
 >
 > 以上

（出典：公開講座開催担当者からの電子メール）

資料B－1－①－6 高度技術者養成研修の案内

1/1 ページ

高度技術者養成研修

平成18年10月4日(水) 終了しました。
香川県内橋梁の損傷状況データベース化報告と維持管理に関する一
提案
(「橋の長寿命化に関する勉強会」成果報告会)

平成18年12月21日(木) 終了しました。
「地震と土木構造物設計の基礎知識」－南海地震対策－

平成18年12月25日(月)～12月26日(火) 終了しました。
評価版でできる3次元有限要素法解析

<http://www.takamatsu-nct.ac.jp/GD/syomu/kokaikoza/index.html>

2007/04/05

(出典：高松高専ホームページ)

資料B-1-①-7 公開講座開催の案内

3815
月3日、087(869)
無料。申込期間は24日、8
小学校高学年・定員30人。
業高等専門学校。対象は
午。高松市勅使町・高松工
8月6日午前9時から正
みよう! 硬式野球!
■公開講座「楽しんで

セミナー

高松高専公開講座

君も建設エンジニア!

～さわって、つくって、こわして一日体験～

橋や、構造物を作るときに見られる、技術的に面白いテーマのいくつかを体験します。(弁当が必要です)

時7月31日(日) 10:00～15:00

所高松工業高等専門学校 建設環境工学科

日7月25日(月)～7月28日(木)

対小学校高学年・中学生 10名

料500円(材料費)

パソコンを使って

楽しい暑中見舞い、年賀状を作ろう

時8月1日(月)～3日(水) 13:00～15:00

所高松工業高等専門学校 CSセンター

日7月19日(火)～22日(金)

対主に中学生 十数名

料テキスト・ハガキ代等の

実費必要



楽しんでみよう! 硬式野球!

～硬式ボールを打つ、投げる、捕る～

軟式野球しか経験したことがない小学生に、硬式ボールを使って、キャッチボールやバッティングを楽しんでもらう講座です。高専野球部選手と一緒にプレイします。

時8月7日(日) 9:00～12:00

所高松工業高等専門学校 野球場

日7月25日(月)～8月4日(木)

対小学校高学年 30名

料無料



☎ 761-8058 高松市勅使町355

高松工業高等専門学校 庶務課

TEL 087-869-3815 FAX 087-869-3819

君も建設エンジニア!

●7月30日(日) 午前10時～午後3時

●高松市勅使町・高松工業高等専門学校

橋や構造物を造るときに使われる技術にちなんだ、おもしろいテーマで作品をつくる。対象は、小学校高学年～中学生10人。参加無料(材料費500円)。24日(月)～27日(木)に申し込みを。

☎087(869)3815

(出典:平成17年7月21日発行 四国新聞オアシス)

資料B－1－①－8 サテライトキャンパスの案内

「サテライトキャンパス」

1/2 ページ

**17年度高松市生涯学習カレッジ専門講座
高松高専「サテライトキャンパス」開講のお知らせ**
**『屋島と義経』は好評のうちに終了しました。
次回をご期待ください。**

主催：高松工業高等専門学校・高松市教育委員会

3回シリーズで以下の講座を予定しております。是非ともご参加下さい。

講座のテーマ：『屋島と義経』

『平家物語』には、『源平盛衰記』など、様々な諸本がある。その『平家物語』を通して、源平屋島の合戦の描かれ方と、源義経・その他の活躍の姿をさぐる。

第1回：11月19日(土)「様々な『平家物語』と義経」

第2回：11月26日(土)「屋島の合戦(1)」

第3回：12月 3日(土)「屋島の合戦(2)」

講師：高松工業高等専門学校教授 長谷川 隆

時間：午前10時から11時30分

場所：高松市生涯学習センター「まなびCAN」：視聴覚室

高松市片原町11番1号『むうぶ片原町』ビル内：TEL 087-811-6222

参加費：無料
定員：40名

お問い合わせは高松高専庶務課(電話：087-869-3815)まで

<http://www.takamatsu-nct.ac.jp/RC/manabican.html>

2007/04/05

(出典：高松高専ホームページ)

資料B－1－①－9 サテライトキャンパスの案内

生涯学習カレッジ専門講座
「屋島と義経」
とき／11月19日(土)、26日(土)、12月3日
(土)午前10時～11時30分 **内容**／「平家物語」
を通して、源平屋島の合戦の描かれ方と源
義経・その他の姿をさぐります。 **定員**／
先着40人 **受講料**／無料 **申し込み**／高松
工業高等専門学校(☎869・3815)へ。

(出典：高松市報)

資料B-1-①-10 サイエンスフェスタ実行委員会組織図

■第1回サイエンスフェスタ実行委員会議事録■

期日：2006年5月23日 16時40分～

出席者：中川先生、福井先生、榎本先生、由良先生、松原先生、

総務課長、学生課長、十河さん、佃さん、吉成さん、大賀さん、中島さん

1-1:	1-2:	郎	1-3:	1-4:
2-M:	2-E:		2-S:	2-C:
3-M:	3-E:		3-S:	3-C:
4-M:	4-E:		4-S:	4-C:
5-M:	5-E:		5-S:	5-C:
学生会: 5-S	2-E			

記録：機械工学科 福井

議題

1. 今年度実行委員会メンバーの確認

- ・実行委員長 福井先生
- ・教員： 中川先生、福井先生、榎本先生、由良先生、松原先生
- ・職員： 総務・広報室 十河さんを窓口、事務部の協力を得る

・学生： 1-1: 1-2: 1-3: 1-4:

2-M: 2-E: 2-S: 2-C:

3-M: 3-E: 3-S: 3-C:

4-M: 4-E: 4-S: 4-C:

5-M: 5-E: 5-S: 5-C:

学生会: 5-S 2-E

2. 企画と全体スケジュールについて

- ・企画は昨年と同様とする
- ・パンフレット冊子は作成しない
- ・事前および当日に配布するピラは作成する(4000枚)
- ・学生委員には、当日の会場設営作業を協力してもらう

3. 役割分担について

A) 広報関係

- ・チラシ 由良先生
 - 表紙イラスト (OCSへ依頼)
 - 裏表紙 会場内案内図
 - ガイドブックの表紙+α
 - ガイドブックの裏表紙+α
- ・小中学校向け資料 由良先生
 - 工作・自由研究依頼用
- ・高専ウェブサイト 由良先生

(出典：第1回サイエンスフェスタ実行委員会議事録)

資料B-1-①-11 ミニサイエンスフェスタ実行委員会組織図

南新町ミニサイエンスフェスタ実行委員会組織

委員長 4E [REDACTED]
 副委員長 4C [REDACTED], 4C [REDACTED]
 実行委員 4M [REDACTED], 4E [REDACTED], 2E [REDACTED], 2S [REDACTED], 1C [REDACTED]
 アドバイザー 5S [REDACTED], 5M [REDACTED], 5C [REDACTED]

(出典：ミニサイエンスフェスタ実行委員会議事録抜粋)

資料B-1-①-12 ミニサイエンスフェスタの案内

高松工業高等専門学校サテライトキャンパス ミニサイエンスフェスタ

1/2 ページ

こどもよう

高松工業高等専門学校 サテライトキャンパス

ミニサイエンスフェスタ

10月14日(土)15日(日) 南新町商店街 終了しました。

10月21日(土) 栗林小学校 終了しました。

⇒タイムスケジュール

MENUミニサイエンスフェスタとは？
これまでの活動
内容**ミニサイエンスフェスタとは？**

ミニサイエンスフェスタ(以下ミニサイ)とは、高松高専学生祭と同時開催されているサイエンスフェスタの縮小版です。
現在、サテライトキャンパスの一環として、あちこちに出かけて行っている、子供達と科学で遊んでいます。サイエンスフェスタは教員が主体となっており、ミニサイは学生が主体です。

内容的には理科の実験のようなものですが、大人ではなく学生と共に“あそぶ”ことにより、子供達は科学に親しむことができます。解説等も加えていますが、みんな真剣に聞いてくれています。
小学校等への出張も受け付けておりますので、担当の加藤教員までお問い合わせ下さい。

これまでの活動

平成16年度	10/30,31	南新町商店街秋祭り ⇒写真
	3/12	栗林小学校⇒写真
平成17年度	10/22	栗林小学校⇒写真
	10/23	サンポート ⇒写真
	12/17,18	南新町商店街

<http://www.takamatsu-nct.ac.jp/GD/syomu/miniscience/index.html>

2007/04/05

(出典：高松高専ホームページ)

資料B－1－①－13 ミニサイエンスフェスタの広告

「ちょっとちょっと! 科学の時間が始まるよ!」

第3回

サイエンス・フェスタin南新町

ドキドキ 科学調査隊

14 15
土曜日 日曜日
AM11:00~

当日は、下記の「無料駐車場クーポン券」を切り取ってご利用下さい。

無料駐車場クーポン券
60分無料
●コピー不可 ●このクーポンは10月14・15日のみ
●利用は2枚まで

無料駐車場クーポン券
60分無料
●コピー不可 ●このクーポンは10月14・15日のみ
●利用は2枚まで

*無料駐車場クーポン券は〈毎月恒例無料駐車場〉〈南新町西パーキング〉〈KJパーキング〉〈セントラルパーキング〉〈マイパーキング〉〈ゆりやパーキング〉〈加賀パーキング〉〈スミレパーキング〉〈トキワ新町西パーキング〉〈パーキング126〉〈田町駐車場〉〈南蔵モータープール〉にてご利用頂けます。

◆ **科学調査隊 時間割** ◆

オリーブホール前ステージ

	1時限 (11:00~)	2時限 (12:00~)	3時限 (13:00~)	4時限 (14:00~)	5時限 (15:00~)	6時限 (16:00~)
14日	シャボン玉	ハノイの塔	倉 庫	液体窒素	倉 庫	科学クイズ
15日	色が変わる 実験	気象実験	「あじっ ライク」	空 気 砲	電圧実験	プラスチック

ブースでも観覧できるヨ! 他、フリクラ・スターリンクエンジン・スライム等。

同時開催

14 高松南高等学校「収穫祭」
15 塩江「産直市」 阿波銀行前

協力／高松工業高等専門学校・高松南高等学校

高松南新町商店街振興組合

(出典：リビング高松)

資料B-1-①-14 ミニサイエンスフェスタのプレス向け資料

報道関係各位

平成18年10月5日

高松南新町商店街

ドキドキワクワク科学調査隊

第3回サイエンスフェスタ開催のお知らせ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、南新町商店街では

今月14日(土)15日(日)の二日間 サイエンスフェスタ in 南新町を開催いたします。

この催しは、今後日本を背負って立つ子供たち(もちろん大人たちも)に、
知れば知るほど不思議で楽しい世界を体験することにより、科学にもっと興味を持ってもら
いたいと高松高等専門学校様の御協力のもと企画いたしました。

第3回目を迎える今回のサブタイトルは、

【ちょっとちょっと科学の時間が始まるよ！ドキドキワクワク科学調査隊】

前回人気だった実験などに加え、新しく天気の不思議を探るコーナーや科学クイズなど、
タイトルどおりのドキドキワクワク体験満載です！

科学の時間だけではなく、南新町イメージソングを歌ってくれているストックグリーンのコ
ンサートや、高松高専プラスバンド部コーラス部のステージもご用意いたしました。

くわしくは、別紙をご参照ください。

また、14日は高松南高校の農園でとれた野菜やお花を即売する[南高収穫祭]

15日は塩江町の物産産直市も阿波銀行前で同時開催されます。

是非報道各社様にお取り上げいただきたく本日プレスリリースをさせていただきます。

開催日時と場所は下記のとおりでございます。よろしくお願いいたします。

記

日時：平成18年10月14日(土)15日(日)の2日間

11時～17時

場所：サイエンスフェスタは、菊池寛通りから南部の南新町全域

高松南高校収穫祭は、14日阿波銀行前

塩江産直市は、15日阿波銀行前

お問合せ先：南新町商店街事業部

TEL

実験内容についてのお問い合わせは、高松工業高等専門学校 岡野寛先生まで

okano@takamatsu-nct.ac.jp

(出典：南新町商店街作成資料)

資料B-1-①-15 出前授業の案内

高工専学発第89号
平成17年2月3日

各市立中学校長 殿

高松工業高等専門学校長

[公 印 省 略]

平成17年度出前授業、受け入れ授業について

高松高専では、平成16年度から中学生を対象に出前授業、受け入れ授業を計画しております。

出前授業とは高松高専教員が各中学校に出向き、授業を1クラスに対して実施し、1時間あるいは2時間程度の講義または簡単な実験を行い、中学校の正規の授業時間内において実施するものであります。

受け入れ授業とは、中学生（数十名から2クラス程度まで）に高松高専へ来ていただき、高松高専の教室あるいは実験室を利用して講義、実験実習を行うもので、中学校の正規の授業時間内あるいは長期休暇中（夏休みなど）に行うものとします。

なお、実施要領等は下記のとおりです。

記

- (1) 実施日時：双方の都合の良い日時を打合せて決定する。
出前授業は中学校の正規の授業時間内とする。
受け入れ授業は中学校の正規の授業時間内または夏季休暇中とする。
- (2) 実施内容：「別紙1」のテーマの中から、中学校の要望テーマにより実施する。本校のホームページ (<http://www.takamatsu-nct.ac.jp>) でも公開しています。
- (3) 実施形態：出前授業は中学校に高松高専の教員（原則1名）が出向いて行う講義または簡単な装置（高松高専で準備）を用いての実験とし、クラス単位を原則とするが、10名程度の班別でも可能な場合は実施する。講義時間は1時限～2時限分を原則とする。
なお、同時に出向く教員は2名までとする。
受け入れ授業は高松高専において行う講義または高松高専の実験装置を用いた実験実習に中学生が参加するものとし、数十名～2クラス程度までを原則とし、講義時間は1時限～2時限分を原則とする。
対象学年は原則として2年生・3年生ですが、1年生でも可能です。
- (4) 申し込み：「別紙2」の申込書に記載し、郵送・ファックス・本校ホームページのいずれかで申し込んでください。

「別紙1」
実施内容【注】※印は出前・受入授業のどちらも可のもの
記入のないものは出前授業のみを表す

所属学科	専門分野	教員氏名	職 名	番号	出前授業、受け入れ授業 テーマ	出前 受入	講 義 時 間
一般	国 語	長谷川 隆	教 授	1	『平家物語』について		2
		坂本具儀	助教授	2	漢字のはなし		1
	社 会	権藤典明	教 授	3	地図やグラフをつくろう		2
		河野通弘	教 授	4	裁判員制度について知ろう		1
		田口 淳	助教授	5	人間の心を探ろう！		1
		與田 純	講 師	6	世界を動かした砂糖の歴史		1
	数 学	鎌田 弘	教 授	7	余弦定理とその利用	※	2
		堀江賢治	助教授	8	ピタゴラスの定理とルート2の計算法について		1
		高橋宏明	助教授	9	多面体とオイラー数：2次元のトポロジー		1
		上原成功	講 師	10	集合とパラドックスについて		1
		中川征樹	講 師	11	図形のお話－一筆書きからオイラー数まで		3
	物 理	明神教久	教 授	12	空気の重さを測ろう		1
		加藤清考	講 師	13	(1) 講義：ぼくらの宇宙は膨張している？ －ハッ プルの法則からビッグバンまで－		4
				14	(2) 講義：僕らはみんなヒモからできている？ －超々ミクロの世界のはなし－		2
				15	(3) 体験学習：小さくても飛びます －ミニ気球を浮かせよう（浮力の学習）－		2
	化 学	岡野 寛	助教授	16	電池について勉強しよう！ －次世代の情報通信を陰で支える電池の役割－		1～2
	英 語	出淵幹郎	助教授	17	ゲームとポップソングの英会話	※	1
		寺西雅之	講 師	18	(1) 日本人と英語について考えてみよう		1
				19	(2) 電子辞書を使って辞書を読もう		1
		有道祐子	講 師	20	英会話		1
機械	機械工学	高畑秀行	教 授	21	(1) 原子力発電とはどのようなものか	※	2
				22	(2) 原子力と放射線及び放射線被害とは	※	2
				23	(3) ソーラーカーの仕組みと太陽電池	※	2
	制御工学	岡田憲司	教 授	24	CGやアニメーションで見る機械材料の強さ実験	※	1
	情報処理	礪田 誠	教 授	25	物の性質を決めるミクロ世界の法則		1
		木原茂文	教 授	26	モノ造りのためのコンピュータの活用		1

資料B-1-①-16 企業との包括的連携に関する協定書

独立行政法人国立高等専門学校機構高松工業高等専門学校と
株式会社イズミフードマシナリとの包括的連携に関する協定書

独立行政法人国立高等専門学校機構高松工業高等専門学校（以下「甲」という。）と株式会社イズミフードマシナリ（以下「乙」という。）とは、相互の連携協力について、次のとおり協定を締結する。

（連携協力の内容）

第1条 甲と乙とは、次に掲げる事項について、相互に連携協力する。

- (1) 研究者・技術者の教育、育成、相互交流に関すること。
 - (2) 共同研究の推進に関すること。
 - (3) 学生のインターンシップに関すること。
 - (4) その他相互に連携協力することが必要な事項
- 2 連携協力に関する具体的な内容については、甲乙両者で協議・調整の上、決定するものとする。

（連携協力のための連絡調整）

第2条 前条の規定による連携協力を円滑に実施するため、連携協議会を設置し、意見交換及び連絡調整を行うものとする。

2 連携協議会に関し必要な事項は、別に定める。

（協定の有効期間）

第3条 本協定の有効期間は、協定締結の日から平成19年3月31日までとする。ただし、平成19年4月1日以降については、両者で別途協議の上決定するものとする。

（その他）

第4条 本協定書に定めのない事項及び本協定書の解釈に疑義が生じた場合は、甲と乙が別途協議するものとする。

本協定の成立を証するため、協定書2通を作成し、甲乙両者の記名押印の上、各1通を保有する。

平成18年 5月11日

甲： 独立行政法人国立高等専門学校機構
高松工業高等専門学校長
塩谷 幾雄



乙： 株式会社イズミフードマシナリ
取締役社長 鶴谷 泰二



（出典：イズミフードマシナリとの協定書）

資料B－1－①－17 オープンキャンパスに関する審議経過

(4) 体験入学について

- 今年度は、夏休み中の日・月曜日に行う。前年と参加者数の増減など比較する
- 中学生(参加者)に配布するパンフレットの説明文中に、テーマと対応する高専の授業内容(学年、科目名)を(可能であれば)明記する。
- 今年度のテーマを各科で検討する(5月20日まで)。その際、各学科で公開授業の名がつくテーマを一つは入れること(授業内容に即した座学)。また、昨年度の参加者数が少なかったテーマの見直しも行う。昨年度の参加人数は後日寺尾さんから教務委員にメールで送付。
- 見学会の見学場所(2箇所/学科)の変更があれば、あわせて5月20日までに検討。
- 見学会は、今年度も例年通り引率形式で行うが、自由見学もできるよう配慮する

(出典：教務小委員会議事録)

資料B－1－①－18 科目等履修生について

高松工業高等専門学校科目等履修生規則

平成4年7月15日制定

(趣旨)

第1条 高松工業高等専門学校学則（昭和37年4月1日制定）第52条の規定に基づく科目等履修生に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

(入学資格)

第2条 科目等履修生として入学を志願できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等学校を卒業した者
- 二 校長が、前号と同等以上の学力があると認めた者

2 専攻科の科目等履修生として入学を志願できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等専門学校を卒業した者
- 二 校長が、前号と同等以上の学力があると認めた者

(入学の時期)

第3条 科目等履修生の入学の時期は、学年又は学期の始めとする。

(出願手続)

第4条 科目等履修生として入学を志願する者は、次の各号に掲げる書類に検定料を添え、校長に願い出なければならない。

- 一 入学願書
- 二 履歴書
- 三 最終出身学校の卒業証明書又は修了証明書（いずれも見込を含む。）
- 四 健康診断書
- 五 現に職を有している者は、勤務先所属長の承諾書
- 六 その他必要と認める書類

(入学者の選考)

第5条 校長は、前条の入学志願者について、提出された書類によるほか面接等により入学者の選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第6条 前条の選考に合格した者は、所定の期日までに入学科を納付し、所定の書類

(出典：科目等履修生規則)

資料B-1-①-19 開放施設及び使用料金

開放施設及び使用料金

1/2 ページ

×

開放施設及び使用料金

×

最終更新日 2007. 4. 2

番号	施設 の 名 称	開 放 区 分		
		名 称	面 積	使用料(1時間)
1	第 1 運 動 場	運動場(ソフトボール)	4,225㎡	円 694
		運動場(サッカー)	7,040㎡	1,156
		運動場(ラグビー)	11,524㎡	1,893
		第1テニスコート	1面	495
2	第 2 運 動 場	野 球 場	9,495	1,560
		第2テニスコート	4面	(1面当たり) 495
3	第 1 体 育 館	第 1 体 育 館	990	1,222
4	第 2 体 育 館	第 2 体 育 館	887.76	1,096
5	武 道 場	武 道 場	346	595
6	水 泳 プ ー ル	水 泳 プ ー ル	880.528	1,389
7	管理部及び一般教育棟	第 1 講 義 室	55	195
		普 通 教 室 1室	71	252
		" 4室	72	(1室当たり) 256
		" 1室	73	259
		第 1 会 議 室	135	480
		第 2 会 議 室	55	195
		給 湯 室	8	28
8	電気工学科棟及び一般教育棟	普 通 教 室 4室	72	(1室当たり) 256
		" 1室	73	259
		" 1室	87	309
9	建設環境工学科棟及び講義棟	第 3 講 義 室	56	199
		普 通 教 室 2室	76	270
		" 2室	77	274
		" 2室	79	281
10	図 書 館	第 2 講 義 室	186	662
		語 学 演 習 室	88	313
11	専 攻 科 棟	大 講 義 室	105	373
		講 義 室	76	270
12	合 宿 研 修 施 設	和 敬 館		(1人当たり) 5

(注)光熱水料等実費を別途徴収します。

◆開放施設等配置図◆

file:///C:/Documents and Settings/Owner/Local Settings/Temporary Internet File... 2007/04/09

(出典：高松高専ホームページ)

資料B-1-①-20 図書館の利用基準

(利用者)

第7条 図書館を利用できる者（以下「利用者」という。）は、次に掲げるとおりとする。

一 本校の職員及び学生

二 図書館の利用を申し出た一般の利用者

2 利用者は、この規程及びこの規程に基づく細則等を遵守しなければならない。

3 前項の規定に違反した者に対しては、図書館の利用を停止し、又は禁止することができる。

(出典：図書館利用規程第7条)

資料B-1-①-21 公開講座の実施内容

■公開講座等

●公開講座

	開催日	参加者数	定員
H14 からくり工房2002 -親子で楽しむメカ・ハムスターづくり-	2002.8.3(土)・4(日)	21	20
H14 硬式野球体験講座 -硬式ボールを打つ・投げる・捕る-	2002.8.4(日)	17	30
H14 地震の備えは大丈夫? -体験して実験して地震の基礎知識を学ぼう-	2002.8.24(土)	1	20
H14 素粒子で探る宇宙 -私たちの宇宙はどのように始まったか?-	2002.12.22(日)・23(月)	16	10
H15 君も建設エンジニア! -さわって、つくって、こわして一日体験-	2003.8.3(日)	11	10
H15 からくり工房2003 -携帯電話の振動モータと歯ブラシで動く「メカかたつむり」を作ろう-	2003.8.2(土)・3(日)	20	20
H15 硬式野球体験講座 -硬式ボールを打つ・投げる・捕る-	2003.8.3(日)	18	30
H16 CAD(パソコン)で設計図をつくってみよう! -紙飛行機から機械部品まで-	2004.8.2(月)	9	10
H16 君も建設エンジニア! -さわって、つくって、こわして一日体験-	2004.8.1(日)	11	10
H16 硬式野球体験講座 -硬式ボールを打つ・投げる・捕る-	2004.8.1(日)	25	30
H17 楽しんでみよう!硬式野球! -硬式ボールを打つ・投げる・捕る-	2005.8.7(日)	19	30
H17 パソコンを使って楽しい 暑中見舞い、年賀状を作ろう	2005.8.1(月)~3(水)	1	十数名
H17 君も建設エンジニア! -さわって、つくって、こわして一日体験-	2005.7.31(日)	12	10
H18 楽しんでみよう!硬式野球! -硬式ボールを打つ・投げる・捕る-	2006.8.6(日)	12	30
H18 からくり工房2006 -携帯電話の振動モータと歯ブラシで動く「メカかたつむり」を作ろう-	2006.8.1(火)~3(木)	12	30
H18 君も建設エンジニア! -さわって、つくって、こわして一日体験-	2006.7.30(日)	18	10

(出典：企画室資料)

資料B-1-①-22 高度技術者養成研修の実施内容

●高度技術者養成研修

	開催日	参加者数	定員
H14 斜面の安定性評価 -そこが知りたい!安定解析のツボ-	2002.10.3(木)・4(金)	11	20
H15 原位置・土質試験の方法とデータの取扱い -土のイロハのイから初めよう-	2003.12.5(金)	13	
H18 香川県内橋梁の損傷状況データベース化報告と維持管理に関する一提案 -「橋の長寿命化に関する勉強会」成果報告会-	2006.10.4(水)	66	160
H18 地震と土木構造物設計の基礎知識 -南海地震対策-	2006.12.21(木)	14	20
H18 評価版でできる3次元有限要素法解析 (共催：香川県産業技術センター 香川県システム技術研究会 (財)かがわ産業支援財団)	2006.12.25(月)~28(火)	11	15

(出典：企画室資料)

資料B-1-①-23 サテライトキャンパスの実施内容

●高松高専「サテライトキャンパス」(共催:高松市教育委員会)

	開催日	参加者数	定員
H15 讃岐を彩った人々 第1回「お大師さん 空海」	2003.11.8(土)	35	40
H15 讃岐を彩った人々 第2回「火雷神になった菅原道真」	2003.11.15(土)	34	40
H15 讃岐を彩った人々 第3回「源平合戦のヒーロー 源義経」	2003.11.22(土)	24	40
H15 讃岐を彩った人々 第4回「マルチタレント 平賀源内」	2003.11.29(土)	29	40
H16 讃岐の"ムラ"と"マチ" 第1回「日本最古の地図(弘福寺領山田郡田図)が描く古代讃岐のムラ」	2004.11.6(土)	17	40
H16 讃岐の"ムラ"と"マチ" 第2回「中世・近世の讃岐のムラ」	2004.11.13(土)	13	40
H16 讃岐の"ムラ"と"マチ" 第3回「城下町プランからみた高松」(1)	2004.11.20(土)	13	40
H16 讃岐の"ムラ"と"マチ" 第4回「城下町プランからみた高松」(2)	2004.11.27(土)	12	40
H16 デジタル家電は何故動くのか?	2005.3.5(土)	21	40
H17 屋島と義経 第1回「様々な『平家物語』と義経」	2005.11.19(土)	27	40
H17 屋島と義経 第2回「屋島の合戦(1)」	2005.11.26(土)	26	40
H17 屋島と義経 第3回「屋島の合戦(2)」	2005.12.3(土)	23	40

(出典:企画室資料)

資料B-1-①-24 サイエンスフェスタプログラム

サイエンスフェスタ 2005 in 高松高専 わんぱく博覧会

科学実験や科学工作などを直接体験して、自然の不思議さ、科学のおもしろさを実感できます。子どもに対する興味や関心を高めるとともに、高松高専の教育機能を地域社会に開放することを目的としています。15の魅力的なテーマで「実験・ものづくり」などを教職員・学生が総力を挙げて行います。また、近隣の小・中学生が夏休みに製作した工作・自由研究作品展も実施します。

11月12日(土)～11月13日(日)
11:00～15:00(学生祭と同時開催)

高松工業高等専門学校
第二体育館

小・中学生及び保護者 無料

番号	テーマ
1	二項係数の不思議
2	50万ボルトを体験しよう
3	真空を体験しよう
4	燃料電池ってどんなもの
5	玉のレース
6	うずのパワーだ! 空気砲
7	レゴロボットをプログラムでうごかさう
8	電気くらげであそぼう
9	電磁力を体験しよう～クリップモータの製作～
10	電子工作
11	ハノイの塔
12	モータをつくろう!
13	ツルツルコンクリートのウエイト作り
14	川の水がきれいになる仕組み その主役の生物を観察してみよう
15	人の意識を計測してみよう

〒761-8058 高松市勅使町355 高松工業高等専門学校
学生課技術支援室 佃 芳行 TEL 087-869-3883

(出典:四国新聞 オアシス)

資料B-1-①-25 ミニサイエンスフェスタの概要

みんなで遊び隊！！

～南新町に来なサイエンス～

たのしいかぐてあそぼう！おもしろいことがいっぱいだよ！
だれでもさんかできるよ！さんかしてくれたみんなにはプリクラをプレゼント！
ぜひぜひきてね！！

にちじ：10がつ30にち（どうようび）・31にち（にちようび） あさ11：00～ゆうがた6：00
ばしょ：みなみしんまち商店街

ステージでやってるよ！30にち（どうようび）のよてい

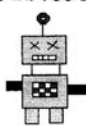
11：00～	ねつききゅう	てづくりききゅうを	しょうてんがいにとばそう！
12：00～	ハノイのとう	きょだいハノイのとうにちようせん！	だれがかつかな？
1：00～	えきたいちっそ	マイナス196℃でバナナやボールをこおらせるよ！	みにきてね！
2：00～	がっしょう		
3：00～	アカペラ		
4：00～	ロボコン	ロボットがうごいたりものをはこんだりするよ！	みにきてね！
5：00～	きょだいシャボンだま	シャボンだまにつつまれる！？	おきなシャボンだまをつくろう！

ステージでやってるよ！31にち（にちようび）のよてい

11：00～	きょだいシャボンだま		
12：00～	ロボコン	※30にちとおなじなよう	
1：00～	えきたいちっそ		
2：00～	ハノイのとう		
3：00～	ねつききゅう		
4：00～	<アンコール>	もういちどやりたい！もういちどみたい！	あのステージをふたたび！
5：00～	プラスバンド		

みちのまんなかでやってるよ！（どうようび・にちようび）

のってみよう！たいようでうごくくるま！
スライムをあしてさわってみよう！
いろいろなシャボンだまをとばそう！
マイナス196℃ですぐにできるアイスをつくってみよう！！
できるかな？りったいパズル『ハノイのとう』にちようせんしてみよう！
レゴのくるまをはしらせよう！



（出典：ミニサイエンスフェスタ実行委員会作成資料）

資料B－1－①－26 出前授業

出前授業資料

2004年11月25日
於 丸亀市立西中学校

テーマ「人間の心を探ろう！－新たな自分発見－」

高松工業高等専門学校
一般教育科 田口 淳

1. 自己紹介

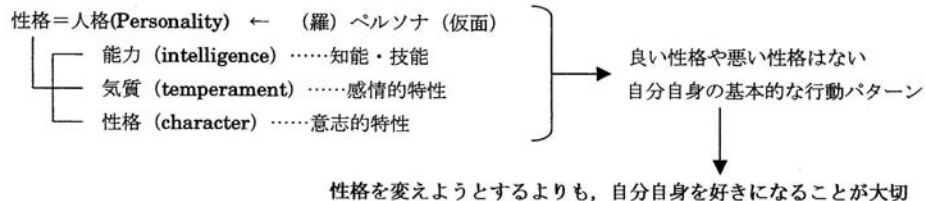
2. Who am I? テスト

あなたは自分自身のことをどれだけ表現できますか？

3. 自分の長所と短所は？

あなたは自分の長所・短所を知っていますか？

4. 性格とは？



5. 自分を好きになるための7つの秘訣

1. 1日1回「自分が大好き」と言葉に出して言う
 2. プラス思考で考える
 3. 目標を持って挑戦する
 4. 資格を取る
 5. 3行日記をつける
 6. 感謝の言葉を口にする
 7. 人に尽くす温かい心を持つ
- ☆ 自分で自分を決めつけないで、
前向きに生きていくこと！
☆ 殺し文句の禁止！
「どうせ自分なんて…」
「ダメだ」「無理だ」など
-

6. ストレスチェックとストレス解消法－力を抜くことを覚えよう！

あなたのストレス度は？ ストレスの解消法…ストレスマネジメント

7. まとめ

(出典：出前授業担当者作成資料)

資料B－1－①－27 食品メーカーへの出前授業

機種別レベルアップ教育・A案

2006-04-07 嶋田

Rev.2-04-07 材力系のみ4回とする、熱&流体は2回

勉強会は2回／月(上旬1回、下旬1回)、午後半日／回、電話待た禁止、全員出席

	5	6	7	8	9	10	11	12	01	02	3	4	5
第一班	湖崎H 高橋U 稲谷U 木村淳U	森山U 前田U 小林U修 安原U	6月06日14 材力F力ロ-材力F力ロ- 5月30日14 基礎・材力基礎・材力タンク	7月04日14 基礎・熱 8月21日14 F力ロ- 8月19日13 F力ロ- 8月20日13 熱交・熱交CIP	8月02日14 材力F力ロ- 8月22日14 F力ロ- 8月21日13 熱交・熱交CIP	9月06日13 熱交・熱交 10月20日13 熱交・熱交CIP	10月05日13 熱交・熱交 11月17日13 F力ロ- 11月19日13 熱交・熱交CIP	11月04日13 熱交・熱交 12月18日13 F力ロ- 12月20日13 熱交・熱交CIP	12月04日13 熱交・熱交 1月01日13 F力ロ- 1月02日13 熱交・熱交CIP	12月11日13 熱交・熱交 1月25日13 F力ロ- 1月26日13 熱交・熱交CIP	制御	制御	熱交設置 設計基準作成 タンク設計基準作成
第二班	百歩U 子林U 榎本U 住友U修	浦川U 中登U修 杉船U修 生野H	5月15日14 基礎・熱 5月29日14 F力ロ- 6月07日13 熱交・熱交	6月08日14 材力F力ロ- 8月22日14 F力ロ- 8月21日13 熱交・熱交CIP	8月05日14 材力F力ロ- 8月22日14 F力ロ- 8月21日13 熱交・熱交CIP	9月06日13 熱交・熱交 10月20日13 熱交・熱交CIP	10月05日13 熱交・熱交 11月17日13 F力ロ- 11月19日13 熱交・熱交CIP	11月04日13 熱交・熱交 12月18日13 F力ロ- 12月20日13 熱交・熱交CIP	12月04日13 熱交・熱交 1月01日13 F力ロ- 1月02日13 熱交・熱交CIP	12月11日13 熱交・熱交 1月25日13 F力ロ- 1月26日13 熱交・熱交CIP	制御	制御	ホモゲ設計基準作成
第三班	平田U 土井S 森谷U 木村貴U 坂本U	港U 佐藤U 赤川U 松本U	5月19日14 基礎・熱 6月02日14 F力ロ- 6月16日13 熱交・熱交	6月08日14 材力F力ロ- 8月22日14 F力ロ- 8月21日13 熱交・熱交CIP	8月05日14 材力F力ロ- 8月22日14 F力ロ- 8月21日13 熱交・熱交CIP	9月06日13 熱交・熱交 10月20日13 熱交・熱交CIP	10月05日13 熱交・熱交 11月17日13 F力ロ- 11月19日13 熱交・熱交CIP	11月04日13 熱交・熱交 12月18日13 F力ロ- 12月20日13 熱交・熱交CIP	12月04日13 熱交・熱交 1月01日13 F力ロ- 1月02日13 熱交・熱交CIP	12月11日13 熱交・熱交 1月25日13 F力ロ- 1月26日13 熱交・熱交CIP	制御	制御	プラハ設計手順 &要素機器使用 決定基準

講師
材料力学 木原教授... (火 午後)
流体力学 山内教授... (金 午後)
熱力学 小島助教授... (月 午後)

...高松高等による指導
...機種実行リダーによる講義&演習
タンク:稲谷、熱交:設置装置:湖崎、ホモゲ:柳川CL、機拌:稲谷/嶋田
制御:稲谷、設計基準まとめリダー:熱交(湖崎)、ホモゲ(柳川)、タンク(稲谷)、プラハ(七滝)

(出典：出前授業担当者作成資料)

資料B-1-①-28 オープンキャンパスの概要

オープンキャンパス

体験入学
& 学校見学会

日時：9月10日(土)・午前・午後の二部制
9月11日(日)・午前のみ
場所：高松工業高等専門学校内

※『体験入学』 対象：中学生
※『学校見学会』・『何でも質問コーナー』
対象：どなたでも随時参加できます。



コース	体験入学	学校見学会
9月10日(土) 午前の部	受付 8:30～ 9:00～12:00	受付 9:15～ 9:40～12:00
午後の部	受付 12:30～ 13:00～16:00	受付 13:15～ 13:40～16:00
9月11日(日) 午前の部	受付 8:30～ 9:00～12:00	受付 9:15～ 9:40～12:00

申込方法は下記のとおりです。

なお、『体験入学』希望の方の申込期日は
6月30日(木)までとさせていただきます。

(1) 中学校から申込みの場合は、担任の先生を通じて申込んでください。

(2) 個人で直接申込みこともできます。下記のいずれかの方法で申込んでください。

①電話：087-869-3832

(高松高専学生課)

②ファックス：087-869-3839

『体験入学』(日時、午前、午後、希望プログラム名)あるいは『学校見学会』(日時、午前、午後)と中学校名・住所・氏名・年齢・電話番号をお書きのうえ、上記宛てにご送信ください。また、複数参加も可能です。

③インターネット

下記にあるホームページの『体験入学』『学校見学会』を開いて申込んでください。

※『体験入学』の各プログラムには定員がありますので、第2・第3希望にまわっていただいたり、午前・午後・日付の変更等の調整を行ったりする場合があります。

3回行いますので、都合の良い時を選んで参加ください。

『体験入学』と『学校見学会』組み合わせて一日参加も大歓迎です。

中学生のあなたは、『体験入学』と『学校見学会』の両方とも参加できます。



『体験入学』のプログラムは裏面に記載しています。興味があるものを選んでください。

詳しくは、高松高専学生課 TEL:087-869-3832 まで気軽にお問い合わせください。

また、プログラムの内容紹介は、下記の高松高専ホームページに掲載しています。ご覧ください。

HOMEPAGE

国立 高松工業高等専門学校 (〒761-8058香川県高松市勅使町355)
http://www.takamatsu-nct.ac.jp

(出典：学生課資料)

資料B－1－①－29 科目等履修生の受講状況

2007.1.30

科目等履修生；最近過去5年間の状況

年度	受講人数	区分	受講科目
平成14年度	0	—	—
15	0	—	—
16	0	—	—
17	2	専攻科生 社会人	本科・電気情報の2科目 専攻科・一般の1科目
18	1	専攻科生	本科電気情報の1科目

※JABEE受審により，本科で60点に満たない科目を科目等履修生により取得させるようになった。

社会人については，業務との関連により，知的財産関係の授業を受講。

以 上

(出典：学生課資料)

資料B－1－①－30 学内施設の開放状況

(20) 学校施設(体育施設・運動場・教室等)の開放状況(平成14～17年度)

No	区分	機関名	利用件数				利用人数				施設の種類				開放日の区分				対象者			
			14年度	15年度	16年度	17年度	14年度	15年度	16年度	17年度	体育館	運動場	教室	その他	平日	休日	常時	長期	一般	高等生	高校生	その他
41	国	高松	23	13	45	204	1250	1078	2466	4424	○	○	○	○					○			

(出典：総務課資料)

資料B-1-①-31 図書館の利用状況

平成17年度利用者数

学 生

学年	種類	1 組	2 組	3 組	4 組	合 計
1 年	図書	105	116	108	73	402
	消耗	3	1	0	0	4
	CD	23	13	20	10	66
	雑誌	1	4	2	1	8
学年	種類	M	E	S	C	合 計
2 年	図書	38	63	144	64	309
	消耗	0	1	5	0	6
	CD	24	25	35	25	109
	雑誌	2	0	3	0	5
3 年	図書	76	110	176	84	446
	消耗	0	4	8	1	13
	CD	15	22	28	18	83
	雑誌	0	1	0	4	5
4 年	図書	133	104	71	99	407
	消耗	1	3	6	4	14
	CD	56	33	12	40	141
	雑誌	0	8	1	1	10
5 年	図書	115	173	121	162	571
	消耗	3	7	5	5	20
	CD	25	16	7	18	66
	雑誌	0	4	2	23	29
学年	種類	AS	AC			合 計
1 年	図書	106	22	0	0	128
	消耗	23	3	0	0	26
	CD	5	0	0	0	5
	雑誌	2	3	0	0	5
2 年	図書	146	30	0	0	176
	消耗	4	1	0	0	5
	CD	19	5	0	0	24
	雑誌	3	2	0	0	5
合 計	図書	719	610	620	482	2,439
	消耗	34	20	24	10	88
	CD	167	114	102	111	494
	雑誌	8	22	8	29	67

利用者数

	図 書	消耗図書	C D	雑 誌	合 計
学 生	2,135	57	465	57	2,714
専攻科生	304	31	29	10	374
教 職 員	35	3	7	9	54
学 外	11	3	3	1	18
合 計	2,485	94	504	77	3,160

開館日数

曜 日	日 数
平 日	239
土曜日	35
日曜日	5
計	279

時間別利用者数

時 間 内		時 間 外				計	
日 数	人 数	平 日		休 日		日 数	人 数
		日 数	人 数	日 数	人 数		
239	34,934	182	6,282	40	1,962	279	43,178
1日平均	146.2	34.5		49.1			154.8

(出典：学生課資料)

観点B-1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

（観点に係る状況）

1. サービス享受者数

過去5年間に実施された各企画の参加人数を資料（資料B-1-②-1）に示す。

2. アンケート結果

前章で記述した多くの企画について終了後に参加者を対象としたアンケートを実施している。内容としては、その企画に対する満足度を5段階で評価する項目と、自由記述からなる場合が多い。代表的なアンケート例を（資料B-1-②-2）に示す。

平成18年度公開講座の満足度調査アンケートの結果（資料B-1-②-3）によると、実施した全ての講座について、満足していただいた参加者が80%以上を占めており、目的に掲げた、生涯学習や地域の人材育成に寄与していると考えられる。

オープンキャンパスのアンケート結果（資料B-1-②-4）については、過半数以上がオープンキャンパスを体験し良かったと回答している。

ミニサイエンスフェスタについては、対象が小学生であるため、保護者を対象としたアンケートを実施しその結果（資料B-1-②-5）によると、多くの保護者が次年度の開催を希望しており、また子供の将来の進路の選択肢の一つとして高専も考えるようになったとの記述もある。

また、ミニサイエンスフェスタについては、協力した本校学生の感想が学生会誌などに（資料B-1-②-6）寄せられている。参加した多くの学生が、企画や他人へ説明することの難しさを記述しており、正規課程の学生以外に対する教育サービスの実施が、本校の学生の教育にも役立っていることが分かる。

3. 改善システム

オープンキャンパスに関しては、アンケート結果について教員会議においても議論（資料B-1-②-7）され、その結果を踏まえて教務委員会で次年度の実施計画を立案している。サイエンスフェスタについては、アンケート結果について、実行委員会で反省会を開催（資料B-1-②-8）し次年度への改善につなげている。

（分析結果とその根拠理由）

適切である。

公開講座など実施後には参加者に対するアンケート調査はなされ集計されている。

資料B-1-②-1 種々の企画の参加人数

■研究成果の公開

	開催日	参加者数
H14 ハイテクシンポジウム 2002 タカマツ 「21世紀の社会福祉に向けて」	2002. 7. 31(水)	70
H15 ハイテクシンポジウム 2003 タカマツ 「産業界を支える生産加工技術」	2003. 7. 31(木)	60
H16 技術交流会 2004 「情報社会を支える光技術」	2004. 7. 23(金)	88
H17 技術交流会 2005 「ITを支える薄膜技術」	2005. 7. 22(金)	60
H18 四国6高専産学官交流会 in TAKAMATSU	2006. 7. 31(月)	70
H19 技術交流会 2007	2007. 8. 3(金)	

■公開講座等

●公開講座

	開催日	参加者数	定員
H14 からくり工房 2002 「親子で楽しむメカ・ハムスターづくり」	2002. 8. 3(土)・4(日)	21	20
H14 硬式野球体験講座 「硬式ボールを打つ・投げる・捕る」	2002. 8. 4(日)	17	30
H14 地震の備えは大丈夫? 「体験して実験して地震の基礎知識を学ぼう」	2002. 8. 24(土)	1	20
H14 素粒子で探る宇宙 「私たちの宇宙はどのように始まったか?」	2002. 12. 22(日)・23(月)	16	10
H15 君も建設エンジニア! 「さわって、つくって、こわして一日体験」	2003. 8. 3(日)	11	10
H15 からくり工房 2003 「携帯電話の振動モータと歯ブラシで動く「メカかたつむり」を作ろう」	2003. 8. 2(土)・3(日)	20	20
H15 硬式野球体験講座 「硬式ボールを打つ・投げる・捕る」	2003. 8. 3(日)	16	30
H16 CAD (パソコン) で設計図をつくってみよう! 「紙飛行機から機械部品まで」	2004. 8. 2(月)	9	10
H16 君も建設エンジニア! 「さわって、つくって、こわして一日体験」	2004. 8. 1(日)	11	10
H16 硬式野球体験講座 「硬式ボールを打つ・投げる・捕る」	2004. 8. 1(日)	25	30
H17 楽しんでみよう! 硬式野球! 「硬式ボールを打つ・投げる・捕る」	2005. 8. 7(日)	19	30
H17 パソコンを使って楽しい 暑中見舞い、年賀状を作ろう	2005. 8. 1(月)~3(水)	1	十数名
H17 君も建設エンジニア! 「さわって、つくって、こわして一日体験」	2005. 7. 31(日)	12	10
H18 楽しんでみよう! 硬式野球! 「硬式ボールを打つ・投げる・捕る」	2006. 8. 6(日)	12	30
H18 からくり工房 2006 「携帯電話の振動モータと歯ブラシで動く「メカかたつむり」を作ろう」	2006. 8. 1(火)~3(木)	11	30
H18 君も建設エンジニア! 「さわって、つくって、こわして一日体験」	2006. 7. 30(日)	16	10

●高松高専「サテライトキャンパス」(共催：高松市教育委員会)		開催日	参加者数	定員
H15	讃岐を彩った人々 第1回「お大師さん 空海」	2003.11.8(土)	35	40
H15	讃岐を彩った人々 第2回「火雷天神になった菅原道真」	2003.11.15(土)	34	40
H15	讃岐を彩った人々 第3回「源平合戦のヒーロー 源義経」	2003.11.22(土)	24	40
H15	讃岐を彩った人々 第4回「マルチタレント 平賀源内」	2003.11.29(土)	29	40
H16	讃岐の“ムラ”と“マチ” 第1回「日本最古の地図(弘福寺領山田郡田図)が描く古代讃岐の	2004.11.6(土)	17	40
H16	讃岐の“ムラ”と“マチ” 第2回「中世・近世の讃岐のムラ」	2004.11.13(土)	13	40
H16	讃岐の“ムラ”と“マチ” 第3回「城下町プランからみた高松」(1)	2004.11.20(土)	13	40
H16	讃岐の“ムラ”と“マチ” 第4回「城下町プランからみた高松」(2)	2004.11.27(土)	12	40
H16	デジタル家電は何故動くのか?	2005.3.5(土)	21	40
H17	屋島と義経 第1回「様々な『平家物語』と義経」	2005.11.19(土)	27	40
H17	屋島と義経 第2回「屋島の合戦(1)」	2005.11.26(土)	26	40
H17	屋島と義経 第3回「屋島の合戦(2)」	2005.12.3(土)	23	40
●リフレッシュ教育講座		開催日	参加者数	定員
H14	現場で役立つコンクリート知識	2005.11.28(金)	15	20
●高度技術者養成研修		開催日	参加者数	定員
H14	斜面の安定性評価 ―そこが知りたい!安定解析のツボ―	2002.10.3(木)・4(金)	11	20
H15	原位置・土質試験の方法とデータの取扱い ―土のイロハのイから初めよう―	2003.12.5(金)	13	
H18	香川県内橋梁の損傷状況データベース化報告と維持管理に関する一提案 ―「橋の長寿命化に関する勉強会」成果報告会―	2006.10.4(水)	66	160
H18	地震と土木構造物設計の基礎知識 ―南海地震対策―	2006.12.21(木)	11	20
H18	評価版でできる3次元有限要素法解析 (共催：香川県産業技術センター 香川県システム技術研究会 (財) かがわ産業支援財団)	2006.12.25(月)～26(火)	10	15

■大学等開放特別事業

	開催日	参加者数
H14 サイエンスフェスタ 2002 in 高松高専 ☆☆☆ドキドキ科学体験☆☆☆	2002.11.2(土)・3(日)	約1,000
H15 サイエンスフェスタ 2003 in 高松高専 ～なんでだろう科学体験～	2003.11.8(土)・9(日)	約1,000
H16 さぬきこどもの国ロボットフェスティバル	2004.8.22(日)	
H16 ビジネスマッチング in 香川 2004	2004.10.10(日)	
H16 サテライトキャンパス in 南新町商店街 ～科学で遊び隊!!南新町へ来なサイエンス～	2004.10.30(土)・31(日)	
H16 香大工学部オープンキャンパス	2004.10.31(日)	
H16 サイエンスフェスタ 2004 in 高松高専 ～あけてびつくり科学の扉～	2004.11.6(土)・7(日)	約1,000
H16 ミニサイエンスフェスタ in 栗林小学校 ～みんなで子どもを育てる県民運動サイエンス教育プログラム～	2005.3.12(土)	
H17 ミニサイエンスフェスタ in 栗林小学校	2005.10.22(土)	
H17 地域ICT未来フェスタ in かがわ	2005.10.23(日)	
H17 ビジネスマッチング in 香川 2005	2005.11.1(火)・2(水)	
H17 サイエンスフェスタ 2005 in 高松高専 ～わんぱく博覧会～	2005.11.12(土)・13(日)	約1,000
H17 ロボット教室	2005.11.29(火)	約700
H17 ミニサイエンスフェスタ in 南新町 2005	2005.12.17(土)・18(日)	
H18 第6回全国菜の花サミット in 四国	2006.5.13(土)・14(日)	
H18 ビジネスマッチング in 香川 2006	2006.10.4(水)・5(木)	
H18 第3回ミニサイエンスフェスタ in 南新町商店街 ～ドキドキ・ワクワク科学調査隊～	2006.10.14(土)・15(日)	
H18 ミニサイエンスフェスタ in 栗林小学校	2006.10.21(土)	
H18 くらしと技術の建設フェア in 高松	2006.11.10(金)・11(土)	
H18 サイエンスフェスタ 2006 in 高松高専 ～それ行け科学探検隊～	2006.11.11(土)・12(日)	約1,000
H18 異業種交流・新連携フォーラム四国大会 in かがわ	2007.2.20(火)	約450(四国新聞)
H19 ビジネスマッチング in 香川 2007		
H19 サイエンスフェスタ 2007 in 高松高専 ～	2007.11.10(土)・11(日)	

■全国高専テクノフォーラム

	開催日
H16 第2回全国高専テクノフォーラム	2004.7.20(火)～21(水)
H17 第3回全国高専テクノフォーラム	2005.8.22(月)～24(水)
H18 第4回全国高専テクノフォーラム	2006.7.20(木)～21(金)
H19 第5回全国高専テクノフォーラム	2007.8.9(木)～10(金)

■レベルアップ教育

	開催日	回数
H18 日本スピンドル製造㈱本社での講義	5/15, 19, 29, 30 6/2, 6. 20	24回

(出典：企画室資料)

資料B－1－②－2 公開講座の参加者アンケート

公開講座についてのアンケート

今回おこないました公開講座について、下記のアンケートにお答えください。
□の中に ✓ を入れてください。

1 この公開講座は、どうして知りましたか？

- ☐ 先生から聞いた。
- ☐ 保護者から聞いた。
- ☐ さぬKidsを見た。
- ☐ 四国新聞社オアシスを見た。
- ☐ リビング新聞の記事を見た。
- ☐ その他 ()

2 この公開講座を受けて満足しましたか？

- ☐ 充分満足できた。
- ☐ だいたい満足できた。
- ☐ 普通であった。
- ☐ あまり満足できなかった。
- ☐ 全く満足できなかった。

3 次回このような公開講座が開かれたら参加したいですか？

- ☐ ぜひとも参加したい。
- ☐ 参加するかもしれない。
- ☐ 参加したくない。
- ☐ その他 ()

4 公開講座にはどのようなものをしてほしいですか？

ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

(出典：企画室資料)

資料B－１－②－３ 公開講座等のアンケート結果

公開講座	建設エンジニア	からくり工房	野球
充分満足できた	69%	83%	92%
だいたい満足できた	25%	17%	
普通であった			
あまり満足できなかった	6%		5%
全く満足できなかった			

高度技術者養成研修	有限要素法解析	香川県内橋梁の損傷状況	地震と土木構造設計
充分満足できた	38%	32%	27%
だいたい満足できた	50%	58%	55%
普通であった	12%	8%	18%
あまり満足できなかった		2%	
全く満足できなかった			

(出典：企画室資料)

資料B-1-②-4 オープンキャンパスのアンケート結果

【6】オープンキャンパス体験入学に参加した学科はどこですか。

1	一般教育科(G)	17	7.3%
2	機械工学科(M)	77	33.2%
3	電気情報工学科(E)	72	31.0%
4	制御情報工学科(S)	34	14.7%
5	建設環境工学科(C)	26	11.2%

【7】オープンキャンパス体験入学に参加したプログラムは何ですか。

1		42	18.1%
2		33	14.2%
3		48	20.7%
4		29	12.5%
5		27	11.6%
6		14	6.0%
7		30	12.9%
8		1	0.4%

【8】オープンキャンパス体験入学に参加しての感想はいかがですか。

1	大変よかった	143	61.6%
2	良かった	57	24.6%
3	普通	11	4.7%
4	少しものたりなかった	7	3.0%
5	期待はずれである	3	1.3%
6	その他	0	0.0%

【9】「8」で1から3を選んだ方のみ答えてください。(二つまで回答可)

1	内容がおもしろかった	134	57.8%
2	説明がわかりやすかった	66	28.4%
3	対応が親切だった	87	37.5%
4	物づくりができてよかった	43	18.5%
5	実験装置に触れることができた	19	8.2%
6	その他	3	1.3%

【10】「8」で4あるいは5を選んだ方のみ答えてください。(二つまで回答可)

1	内容がもう一つだった	14	6.0%
2	説明がわかりにくかった	8	3.4%
3	対応が無愛想だった	6	2.6%
4	興味がわいてこなかった	9	3.9%
5	聞いたり見たりだけだった	1	0.4%
6	その他	6	2.6%

【11】また高松高専でオープンキャンパス体験入学があるとしたらもう一度参加したいと思いますか

1	はい	122	52.6%
2	いいえ	1	0.4%
3	べつのプログラムに参加したい	56	24.1%
4	わからない	26	11.2%

(出典：学生課資料)

資料B－１－②－５ ミニサイエンスフェスタのアンケート結果

② おもしろくなかった企画はどれですか。

液体窒素	1	もっと子どもにわかりやすく説明してくれたら嬉しい(低学年 なので) 実験はよかったです
スライム	0	
ハノイの塔	1	低学年には難しい
空気砲	1	材料不足
気象実験	0	
片栗粉	1	よくわからなかった
電圧実験	0	
ブリクラ	0	
学校紹介	0	

③ 新しくしてほしい企画はありますか。

- ・飛行船
- ・室内飛行機
- ・ブーメランの飛ばし方を細かく指導して下さい

④ 高専にすすめたいと思いますか。

思う	3	本人が興味を持ち、これが知識を深めたいという動機となれば良いと思います
どちらともいえない	12	本人が行きたいと言えばすすめる まだ小さいので本当に出来る事がわからない 高専のアピールが少ない。高専をすすめられている気がしなかった 興味を持って、行きたいと思えば行ってよいと思います よくわからない 本人の希望に任せる
思わない	1	

⑤ 自由記述

- ・毎年続けて欲しい
- ・ブースの作り方、実験の種類を豊富にしてほしい
- ・実験の説明がもう少し聞きたかったです
- ・大変楽しめました
- ・楽しい企画で毎年楽しみにしています。ありがとうございます
- ・子どもの相手をするのが大変だったと思いますが、子どもたちは「どうしてかなあ」という疑問を持たれたこと、とっても良い経験ができました。ありがとうございました

ミニサイ実施日 H18年10月21日 in 栗林小学校

集計枚数18枚 集計日10月22日

(出典：ミニサイエンスフェスタ実行委員会作成資料)

資料B-1-②-6 ミニサイエンスフェスタに関する学生の感想

科学で遊び隊！

「サイエンス・フェスタ」in 南新町

昨年に引き続いて本年度も12月17、18日に南新町商店街でサイエンス・フェスタを開催しました。

本企画は、化学の岡野先生を筆頭に始まったもので続編!となります。研究のため1年の間オーストラリアに行っている岡野先生の代わりに、今年度は物理の加藤先生が指揮をとってくださいました。

新スタッフを迎えての活動は、協力してくれたたくさんの1年生の若さと子どもたちの無邪気さが重なって、よりいっそう活気に溢れていました。とても寒い中での開催でしたが、みなさん自身も結構楽しめたのでは!? それでは、少しだけではありますがこの2日間を紹介したいと思います(´・`・´) ☆ページの各部にスタッフの感想も散りばめていますので合わせてどうぞ!!

静電気を見てみよう！



毎年、冬になったら現れる嫌なやつ!!パチとくるそんなやつ!!

そのやつをわざと作って見てみようというこの企画。おそろおそろ静電気発生器具に触れる子どもたちが印象的でした。



人前で何かを説明をするというのは初めてだったので要領よくとはいきませんでした。小さな子どもにも興味をもってもらえるように話をするという事だったので尚難しいと思いました。この経験をこれからの高専生活に生かしたいと思いました。

1-3 瀧 翔太



はじめは、マックカードが欲しくて参加しました。でも、今では興味を持ってくれる人たちと触れ合うことが楽しみの参加しています。科学を作って、遊んで、楽しそうな人たちを見ていると、とても気持ちがいいです。

1-3 田所 克俊

巨大なハノイの塔、誰が一番最初に完成させられるか？



担当者の松元君の威勢のいい掛け声のもと、ハノイのパーツを移動させる音がバシッバシッと鳴り響く!!これぞまさしく闘争心の表れか!?



ミニサイは寒かったです。人が少なかったです。ハノイの塔を担当しましたが、あまりに人がいなかったのでびっくりしました。でも、ステージを進めていくうちに、子どもたちが集まってくれ、ステージも盛り上がりていきました。終わってみるとミニサイはサイコーでした!

3-S 松元 俊明



ブリクラを担当した長浦です。今年は白衣も着れて嬉しかった~♪気温の問題でトラブルもあったけれど、手伝ってくれた瀧くん、姐さん、石井さん、品地くん、本当にありがとう!!来年もミニサイが続くことを期待しています☆

5-E 長浦 夏美

液体窒素で身近なものを凍らせよう! ~-195.8℃の世界



凍えるような寒さの中で超低温実験だ~さらに寒くしてどうするの!?通行人の人たちや体験者は、ガラスのように割れるバラや釘が打てるバナナなど普段見ることのない光景に興味津々でした。



昨年からの活動に参加して、僕は集まった子どもたちにいつも昔の自分を重ねて見ていました。科学少年だったあの頃、目に映るものすべてに好奇心の花を咲かせていた。そんな日々を懐かしく思います。ありがとう~みんなと活動できて本当によかった!!

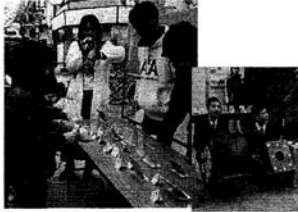
5-M 岡田 直人



今回のミニサイエンス in 南新町では、実行委員として準備・本番と参加しました。当日では、アイスクリームのブースを担当し、協力学生と共に興味を持って立ち寄ってくれた人々に一生懸命説明をしました。冬の寒い時期でしたが、想像以上に好評だったので今度はぜひ夏にやりたいと思います。

4-E 市原 直幸

空気砲で対決！



みなさん誰が空気のパでドーナツ状になって飛ぶことを知っていますか!?漫画(ボバイとか)ではありませんよ!!実際にできるのです。空気の砲弾が的にめがけて飛んでゆく～みんなもはまるにまちがいない!!

昨年はシャボン玉担当として液作りに試行錯誤しましたが、今年は新しく「空気砲」を企画として立ち上げ、今年も楽しく子どもたちと触れ合うことができました♪ぜひ興味のある人は参加してみてください☆いろんな人と知り合いになれるし良い経験になります♪

5-C 立石 裕美

形が変わる?!スライムを作ってみよう!



昨年に引き続き相変わらずの人気ぶり!!協力学生による一対一の指導も印象的!!最後には大量のスライムを小分けにして通行人に配布していました。

栗林小学校と南新町商店街でミニサイエンスフェスタを終えて、この企画に参加できてよかったと思いました。科学に触れる子どもたちに実際に体験してもらうことで興味を抱くきっかけになったと思います。また商店街では大人の方も多く参加してくれました。このように機会を設けることでたくさんの方が科学に興味を持つことが分かりました。これからも続けられたらいいなと思いました。

2-C 三谷 汐里

なかなか割れない。大きなシャボン玉を飛ばそう!



私は去年 mini サイエンスフェスタに参加してシャボン玉を担当しました。シャボン玉はブース企画だったので、子ども達の喜ぶ顔を間近で見ることができました。普段あまり科学に触れる機会がない子ども達に少しでも科学を身近に感じてもらうことができ、私自身とても嬉しかったし良い経験になったと思います。また機会があれば参加したいと思います。

2-C 河瀬 智実

液体窒素でつくる高速アイス&デジカメで撮った写真をプリクラにしよう



この寒い日にアイスなんてと思った人が多いのでは!?でも意外と盛況で、数十秒でできるアイスを食べるように見ている人たちがたくさんいました。



プリクラのブースのはずが...

当日、サイエンス体験者にプレゼントする風船に火がついて大人気に!!ブースはたくさんの風船で溢れかえったのでした。

ロボット&ソーラーカーなど



ロボット研究会のみなさんご協力ありがとうございました。夢中で操作している子どもたちが目に浮かびます。

ソーラーカーは本年度をもって見納めになるかもしれません。何だか寂しいですね。高畑先生には本当に感謝しています。



合唱



ブラスバンド



サイエンスなのになぜ合唱、ブラスバンド!?まあまあ細かいことは抜きにして、この2つの企画はフェスタを盛り上げるため必要不可欠でした。通行人の足を止める力がここにはあった!!合唱部、ブラスバンド部のみなさん!!どうもご協力ありがとうございましたm(_ _)m



みんなお疲れ様でした☆来年もぜひひよロシクね(●^ε≤●)K田先輩にほとんど指揮をとってもらったから、今の5年生が抜けるとかなり心配!!恒例になるようにがんばります☆次回は岡野先生が帰ってくるよー
実行委員長 3-E 黒田 真実



当日になって「足りないものが!!」なんていうトラブルもありましたが、今年も無事、子供たちに笑顔と感動を与えることができました。高専5年間でとてもいい思い出になりました。 5-E 桐田 和樹



今年のミニサイは栗林小学校、サンポート、南新町商店街と去年より回数が多くて大変でした。始まるまでは嫌になることもありましたが、子ども達が楽しんでくれているのを見て、参加してよかったと思いました。それとミニサイに協力してくれた皆様、本当にありがとうございました☆m(_ _)m 5-S 三重野 安衣



私は去年、今年と実行委員としてこのミニサイに参加しました。ミニサイの魅力は自分達で考え、作り、それを参加してくれたみんなとついに学ぶことができることです。みなさんに科学をもっと身近に感じてもらえるようにと開催し始めたミニサイですが、じつは自分が学ぶことのほうが多かったです。1から企画を考え、でも一人ではできません。多くの協力によってこのミニサイは成り立っています。だからこそ、子どもから大人までみんなが楽しく参加してくれている姿を見ると、とても嬉しかったです。今年で卒業なのでミニサイから離れてしましますが、来年も是非、ミニサイを開催してほしいと思います。
5-C 藤本 弥生

みんなありがとう!!o(^-^*)O☆



こんな感じでこれからも、この活動が続いていきますように!!

資料B－1－②－7 教員会議題

(第6回) 教 員 会 議

平成18年10月5日(木)

16:25～17:30

報 告 事 項

1 教務関係

(1) オープンキャンパス参加者のアンケート結果について(資料電子掲示①)

(出典：総務課資料)

資料B－1－②－8 サイエンスフェスタの反省会資料

■第4回サイエンスフェスタ実行委員会議事録■

期 日：2006年12月26日 13時30分～
出席者：中川先生、由良先生、総務課長、十河さん、福井
場 所：第一会議室
記 録：福井

議題

1. 評価すべき事項と反省すべき事項のリストアップと来年度の申し送り事項

ポスターに関して

- ・ 中学校へ作品募集のために訪問する前にポスターを作製して持参すべきであった。
- ・ 2種類のポスターを作製したが、出展ブースのテーマがもっと早く決まれば1種類で済んだ。
- ・ 各担当への依頼は各科実行委員が行うこととした。
- ・ 来年度は7月の頭にポスターが必要。
- ・ 企画室でポスターの印刷ができるようになって、小回りが利いて良かった。
- ・ 毎年ポスターのデザイン作成を依頼している OCS を校長表彰することにする。
- ・ ポスターデザインの作成は、毎年春に OCS へ作成を依頼すれば良い。
- ・ ポスターデザインは電子データで貰い、委員会で加工するのが便利である。
- ・ 今年の実績は、大ポスターが約 270 枚、
小チラシ 3000 枚（小中学校へ郵送 1950 枚、商店街、学祭受付、会場配布 950 枚）

会場配置、設備に関して

- ・ 電源コードとドラムの手配が不十分であった。
- ・ ブースの看板は作成できる人がいれば自作でも良い。
- ・ アンケートの人気をもとにブース配置を工夫してもらいたい。

個々の出展ブースに関して

- ・ 無人にしているブースがあった。ぜひ誰かに常駐してもらいたかった。
- ・ 協力学生を集めるのが大変な場合がある。対策を検討してもらいたい。
- ・ 各ブースが出展するパンフは 100 枚程度で足りた。
- ・ 古いパンフレットの配布は止めてもらいたい。

ロボット研究会との連携に関して

- ・ ロボット実演に人気があり良かった。
- ・ ロボット実演会場の設営、撤収時間の連絡が不十分であった。

学会等の後援に関して

- ・ 学会等が後援となるのは、予算、物品、出展等、実質的な支援があった場合のみとし、名前のみの後援は受けない。

- ・ 今後、学会や後援企業から出展の申し出があった場合には、出展内容がサイエンスフェスタに相應しいかコンセンサスを得る必要がある。

学生祭、学生会との連携に関して

- ・ 開始時間と終了時間を学生祭と合わせる方が良い。
- ・ レンタルする机の数の把握はもっと早める方が良い。
- ・ 学生委員は2名が受付に常駐すれば良い。
- ・ 学外からの来場者が入りやすい様に、会場を第1体育館と交換できないか。
- ・ 学生委員が手伝ってくれたおかげで設営と撤営がスムーズであった。来年も引き続きお願いしたい。

工作・自由研究に関して

- ・ 表彰対象者用の受付を工作・自由研究ブースに作る。
- ・ 表彰の時に体育館の放送を使用する。
- ・ 昨年よりも出展が増えたが、対象校と募集方法を見直しても良い。
- ・ 飛び込みで作品募集に行くのではなく普段からネットワークがある方が良い。

アンケート集計結果に関して

- ・ 小学生がイベントを知ったきっかけはポスター、先生、両親なので小中学校へ配布するポスターの宣伝効果が高い。
- ・ 中学生は難しい出展テーマの人气が高かった。
- ・ 保護者がイベントを知ったきっかけは高松高専 HP が多かった。

ノベルティグッズに関して

- ・ 高専ロゴ入りのペンとドライバーセットは良かった。
- ・ ペンの学外への配布は386本、学内への配布は100本であった。
- ・ 優秀賞作品の包装にも気を配る。
- ・ ペンは大量に余ったので来年も使える。

その他

- ・ 会場設営のノウハウを特定の教員に頼っている部分を何とかしたい。
- ・ 来年度も何名か委員が残ってノウハウを引き継いでもらいたい。
- ・ 予算は例年通りの1ブース2.5万円で良い。
- ・ ケーブルテレビに宣伝できないか検討する。
- ・ 受付で来場者のカウントをしてもらいたい。
- ・ アンケート集計結果を図にして報告する方が良い。

以上

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学外での各種サイエンスイベントを精力的に実施している。特にミニサイエンスフェスタについては、学生会誌などに学生の感想が寄せられており、参加した多くの学生が、知識やコミュニケーション能力の向上に役立ったとコメントしており、正規課程の学生以外に対する教育サービスの実施が、本校の学生の教育にも役立っていることが分かる。

（改善を要する点）

特になし。

（３）選択的評価事項Bの自己評価の概要

公開講座をはじめ、正規学生以外に対するさまざまなサービスが年間を通して多数計画的に実施されている。特に、地元住民を対象としてタイムリーな話題を提供するサテライトキャンパス及び地元商店街や小学校でのサイエンスイベントは他に多くの例を見ない。特に商店街におけるイベントは地元商店街の活性化対策の一環でもあり、地元住民からも歓迎されている。また小学校におけるサイエンスイベントは、短期的には本校に対する志願者増対策として、また中長期的には、理科離れ防止対策としても有効であると考えられる。また、ミニサイエンスフェスタについては、学生会誌などに学生の感想が寄せられており、参加した多くの学生が、知識やコミュニケーション能力の向上に役立ったとコメントしており、正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況が、本校の学生の教育にも役立っていることが分かる。

（４）目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

取組状況や活動状況については「生涯学習や地域の人材教育に貢献」、「本校の学生の教育に役立てる」という２つの目的をほぼ達成しており、「目的の達成状況が良好である」と判断される。